オリックス株式会社
2027年3月期第2四半期　決算説明会

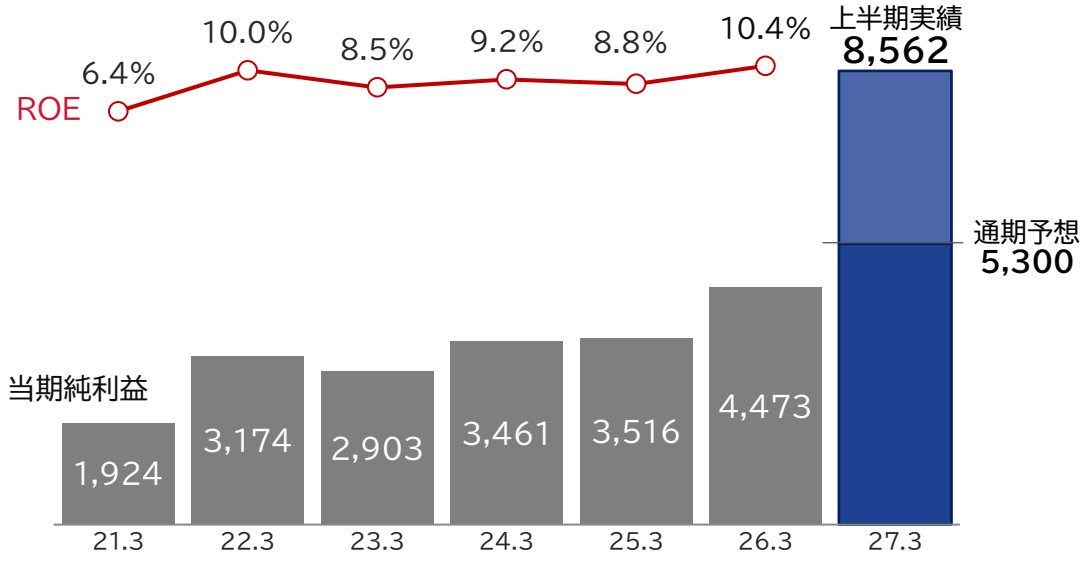
取締役 兼 代表執行役社長・グループCEO　髙橋英丈
取締役 兼 専務執行役　グループCFO/CSO　山田正啓

2026年11月9日

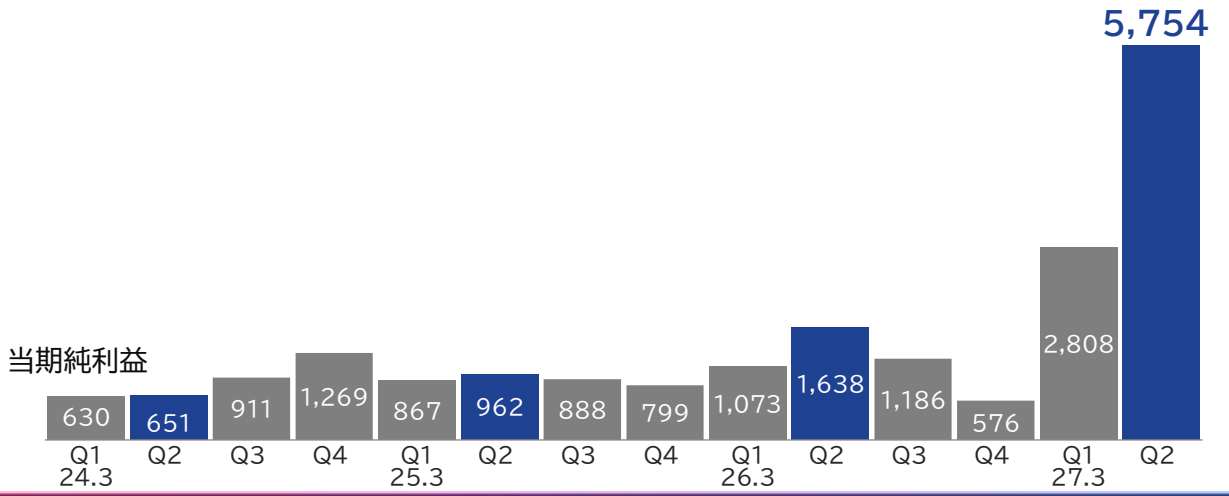
上半期実績

- ✓ 上半期の当期純利益は8,562億円(前年同期比+5,851億円、通期進捗率162%)
- ✓ オリックス銀行および日米PE投資先の株式売却益に加え、キオクシア売却評価益を計上し、上半期として過去最高益
- ✓ 欧米アセマネがアクティブ運用とグローバル販売基盤でAUM拡大、航空機・船舶の資産構成改善や保険も増益に寄与
- ✓ 米国では事業ポートフォリオの見直しを推進、中華圏はリスク削減を優先

通期(億円)



四半期(億円)



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

重点施策の進捗状況

- ✓ オリックス銀行などの譲渡を進めつつ、AerFinなど成長領域への投資を実行
- ✓ ORIX Fleetのローンチや第三者資本の活用を通じ、ビジネスモデルの進化・深化を推進

重点施策	進捗状況
ポートフォリオの最適化	**オリックス銀行を譲渡** ▶ 大和ネクスト銀行へ全株式を譲渡 **PE投資先のExit** ▶ 杉孝、Network Connex、Peakを売却
ビジネスモデルの変革 事業価値創造モデル × 顧客課題解決モデル	**カタール投資庁と組成したPEファンドを活用** PATHWAYS ▶ 日本情報産業への投資を実行 **APAC11か国をカバーする「ORIX Fleet」をローンチ** GROWTH ▶ 豪州の車両管理モデルを軸に、日本のノウハウも組合せ、サービス領域拡大 **国内再エネで第三者資本活用、米国および欧州でAUM拡大** PATHWAYS IMPACT ▶ 蓄電所開発で第三者資本活用の1号案件、NXTが新ファンドをクローズ、欧州アセマネはAIも活用しAUM拡大
新規事業の創出	**AerFinの子会社化** GROWTH IMPACT ▶ 航空機アフターマーケット事業へ参入

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

AerFinの子会社化

- ✓ AerFinの子会社化で、事業基盤を航空機バリューチェーン全体へ拡大
- ✓ 資産価値の最大化と顧客ソリューションの高度化で、航空機事業の収益力を強化

AerFin

所在地	英国・ウェールズ
設立	2010年10月
事業内容	航空機、エンジン、部品の購入、販売、リース、修理
売上高（2025年度）	約USD370m
従業員数	220名+



顧客基盤
- 600社超の顧客
- 300社超の航空会社の認定先
- グローバル事業基盤（EMEA/Americas/APAC）

専門性
- 航空機/エンジンの資産管理に係る専門性
- 高い案件組成能力
- 経験豊富な経営陣

シナジー
- 保有・管理資産の価値最大化
- 顧客向けライフサイクルソリューションの拡大
- 航空機・エンジンの取得機会の拡大

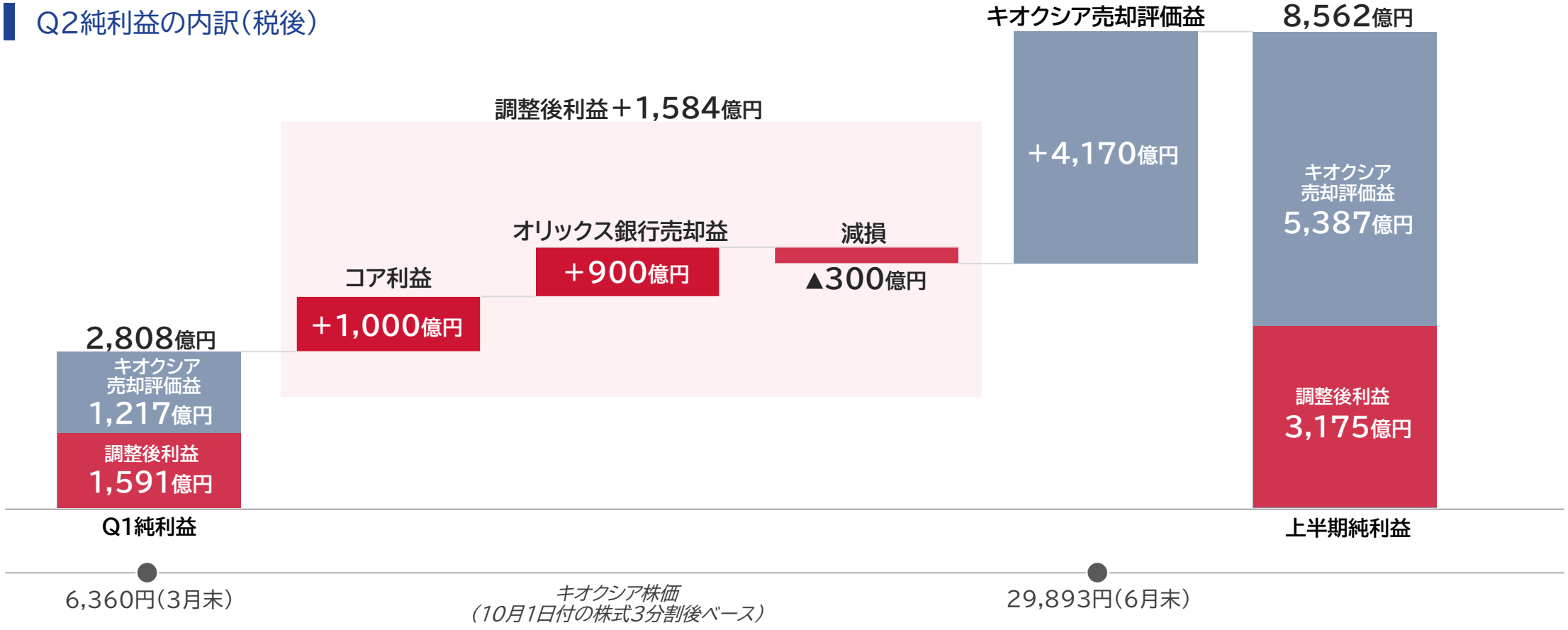
重点施策	AerFinの子会社化
新規事業の創出	**航空機アフターマーケット事業へ参入** ▶ 事業基盤を航空機バリューチェーン全体へ拡大
事業価値創造モデル × 顧客課題解決モデル	**2つのビジネスモデルを進化・深化** ▶ 保有・管理資産の価値最大化 ▶ ライフサイクルソリューションの更なる高度化
ポートフォリオの最適化	**成長市場への資本投下** ▶ 拡大する航空機アフターマーケット ▶ 出口戦略の多様化で収益性向上
戦略的投資領域 PATHWAYS / GROWTH / IMPACT	**サーキュラーエコノミーを推進** ▶ 航空機部品・エンジンの再利用を促進 ▶ 航空機・部品の需要拡大に対応

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

上半期純利益・Q2利益内訳

- ✓ 上半期純利益は8,562億円。Robeco等アセマネ、航空機・船舶、保険などの好調が利益を押し上げ
- ✓ 主に中華圏で減損を計上

Q2純利益の内訳（税後）

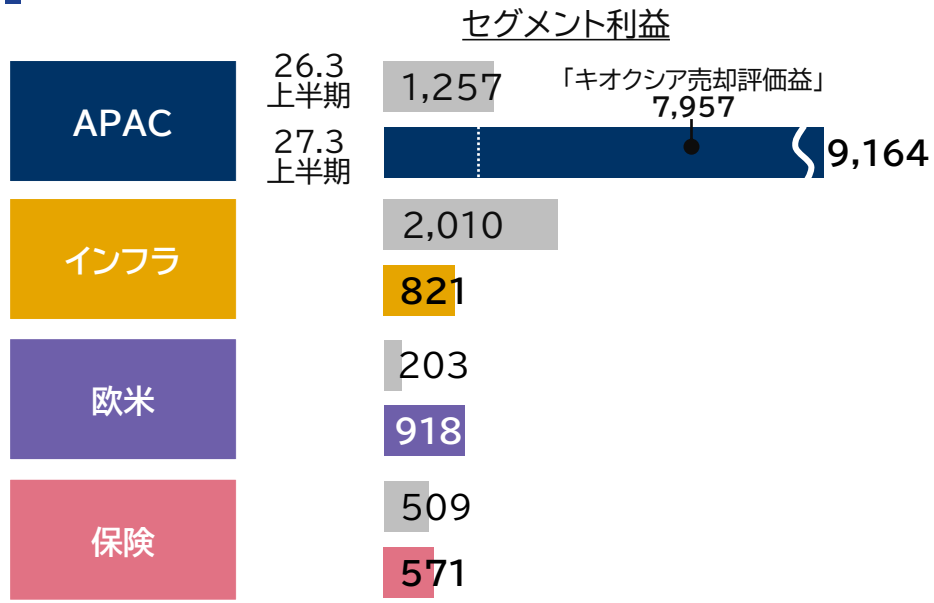


Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

セグメント利益｜4セグメント -前年同期比

- ✓ セグメント利益は1兆1,474億円(前年同期比+7,496億円)、4セグメントのうち3セグメントで増益
- ✓ インフラは前期の大型売却益の反動減がある一方、航空機・船舶が好調

上半期実績(億円)



	前年同期比	主な増減要因
APAC	+7,907 (+629%)	• 杉孝(国内PE投資先)の売却益が大きく寄与 • 中華圏の投資先で減損を計上も、アジアその他地域は新規実行を伸ばし堅調
インフラ	▲1,189 (▲59%)	• Avolonや船舶が好調も、前期に計上した大型売却益(Greenko:約950億円、ホテル等)の反動で減益
欧米	+715 (+352%)	• 米国PE投資先の評価益/売却益で、大幅増益 • 欧州のAM事業がAUM拡大を背景に手数料を伸ばしたことも増益を後押し
保険	+62 (+12%)	• 法人/富裕層向けの高額契約獲得を進め、保険関係損益が増益

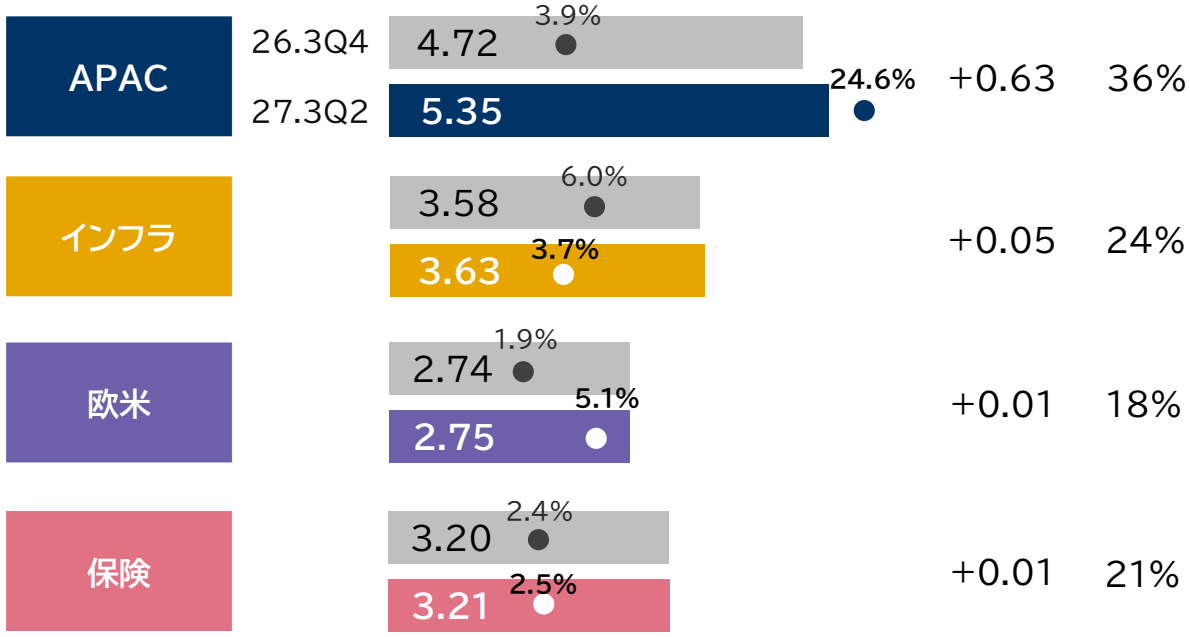
	26.3上半期	**27.3上半期**	前年同期比	通期予想	進捗率	
セグメント利益計	3,978	**11,474**	+7,496(+188%)	7,000	164%	非継続事業を含まない

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

セグメント資産｜4セグメント -前期末比

- ✓ APACは、キオクシア売却評価益の計上に伴い、持分法投資が大きく増加
- ✓ 航空機・船舶の機体購入を進めたインフラ、ローン新規実行や不動産投資を増やした欧米は、いずれも微増

Q2末実績(兆円)



	前期末比	構成比	主な増減要因
APAC	+0.63	36%	• キオクシア売却評価益の計上に伴い、持分法投資が大きく増加 • アジア(韓国、豪州等)で新規実行を伸ばし、増加
インフラ	+0.05	24%	• 航空機・船舶の機体購入を進めているほか、Avolon(持分法適用)の利益取込もあり、増加
欧米	+0.01	18%	• USAにおいてPE投資先の売却があるも、ローン新規実行や不動産投資により、微増
保険	+0.01	21%	• 保険料収入の拡大を背景に運用資産を増やし、微増

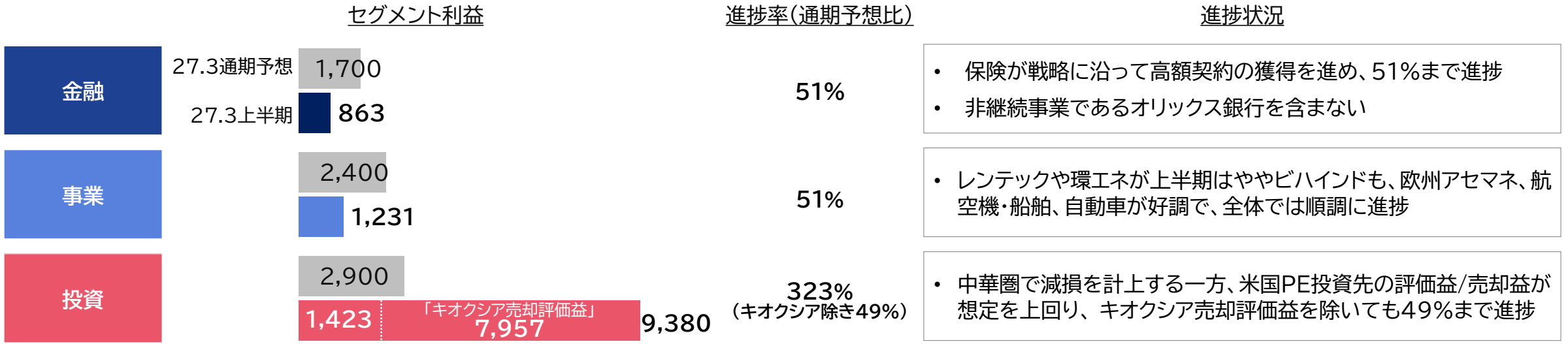
セグメント資産合計　**14.93兆円**(前期末:14.24兆円)　**※総資産:15.61兆円 (ROA10.2%、非継続事業を含む)**

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

セグメント利益｜3分類（金融、事業、投資）-進捗率

- ✓ セグメント利益の通期予想に対する進捗率は164%
- ✓ キオクシア売却評価益を除いても、金融、事業、投資いずれも概ね50%の進捗

上半期実績（億円）



	26.3上半期	**27.3上半期**	前年同期比	通期予想	進捗率	
セグメント利益計	3,978	**11,474**	+7,496（+188%）	7,000	164%	非継続事業を含まない
税引前利益	3,915	**12,433**	+8,518（+218%）	7,600	164%	非継続事業を含む
当期純利益	2,711	**8,562**	+5,851（+216%）	5,300	162%	非継続事業を含む

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

キャピタルリサイクリング

- ✓ 27.3上半期のキャピタルゲインは2,661億円。オリックス銀行や杉孝の売却に加え、米国PEのExitも順調に進捗
- ✓ AerFinの買収を11月2日に完了。カタール投資庁とのファンドを活用した国内PE投資も積極的に進める方針

	25.3期 通期実績	26.3期 通期実績	27.3期 上半期実績	27.3期 通期見込
資本回収	Capital Gains* 1,407億円	2,652億円	2,661億円	2,500億円
	Cash In 6,450億円	1兆1,000億円	9,300億円 主な売却・Exit ●杉孝(SGKホールディングス) ●Network Connex(米国PE) ●オリックス銀行	1兆2,000億円
新規投資	Cash Out 6,000億円	8,000億円	3,400億円 主な投資実行 ●日本情報産業(QIAファンド) ●物流施設 ●航空機/船舶 ●大阪IR ●米国不動産	8,000億円~ 主な投資領域 • 不動産:「価値向上」を重視し積極投資 • 事業投資:QIAとのファンドも活用 • 航空機:AerFinの買収を完了 • 大阪IR:2030年秋開業を予定(不変)

＊東芝をはじめ持分法投資先からの取込み損益は含まない。

凡例 ● APAC ● インフラ ● 欧米 ● 保険 ● 銀行

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

Private Assets/Real Assets｜機能強化と事業拡大

- ✓ 蓄電所のアセマネ化、NXTの新ファンド組成、ディストリビューション体制強化が進捗
- ✓ ディストリビューション機能の強化を通じ、Private AssetsとReal Assetsのアセマネを拡大



主な進捗

再エネ

蓄電所開発(由布、米沢)

- 出資比：ORIX23.7%、投資家76.3%
- 投資家：三菱UFJ信託銀行の子会社等
- ORIX：
  - 開発推進
  - アセットマネジメント(事業管理)
  - O&M(運営、保守)

蓄電所開発で外部資金活用の1号案件

Direct Lending

NXT新ファンド

- 多様な運用形態を通じ新規ファンドを組成
- 新規機関投資家を獲得、既存投資家からのコミットメント拡大
- 第三者資本調達：USD2.8Bn

USでDirect Lendingを拡大

ディストリビューション

Capital Formation Teamの新設(USA)

- 米州責任者を採用しリーダーシップを強化
- 重点市場/領域で継続的に人員を拡充
- 欧州Capital Formation機能との連携を深化

商品力、顧客カバレッジ、グローバル連携を強化

パートナー

日本の機関投資家向け販売体制を構築中

- 国内生保・年金等への販売チームを組成中
- USAファンド商品の販売地域を日本へ拡大
- 既存の国内ネットワークも活用

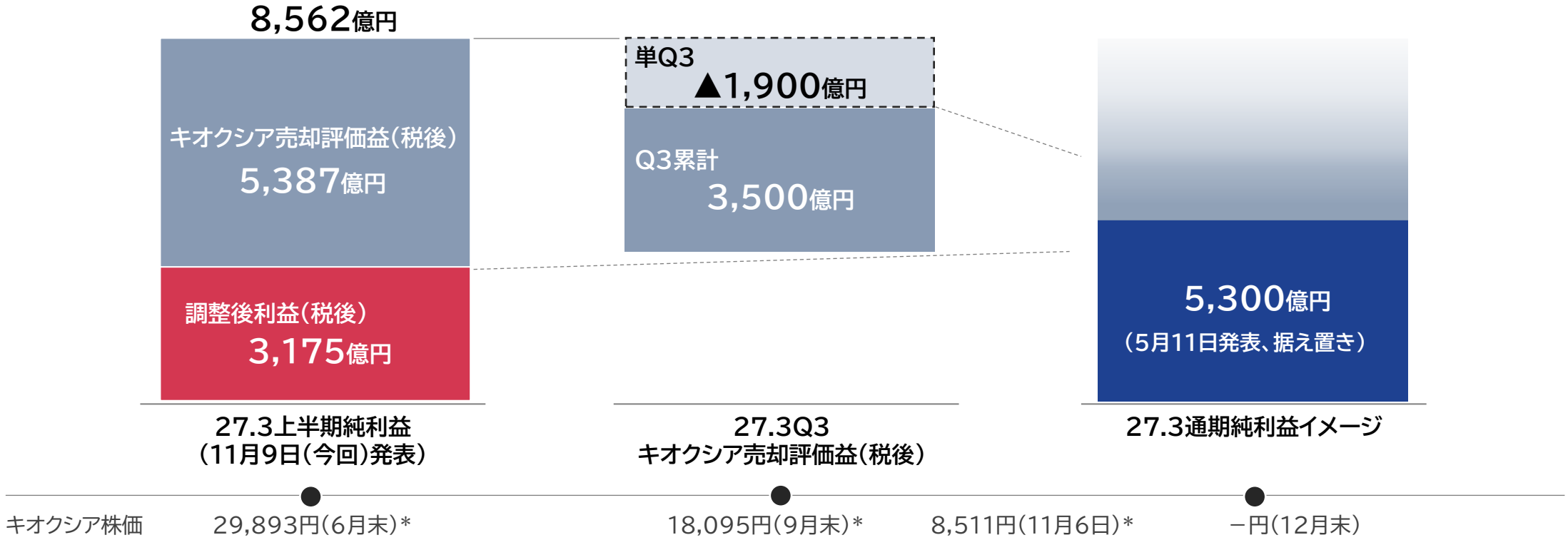
国内機関投資家を新たな調達先に

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

27.3期｜通期純利益予想

- ✓ 「キオクシア売却評価益」は、キオクシア株価±1,000円で±128億円（税後）*の感応度、単Q3は赤字計上を予定
- ✓ Q4の「キオクシア売却評価益」が予想困難なため通期利益予想は5,300億円に据え置き
- ✓ 調整後利益は、欧米アセマネや航空機・船舶を中心に順調な進捗

＊10月1日付の株式3分割後。株価感応度は、東芝が今後、
キオクシア株式について保有割合の減少を進めた場合、縮小する

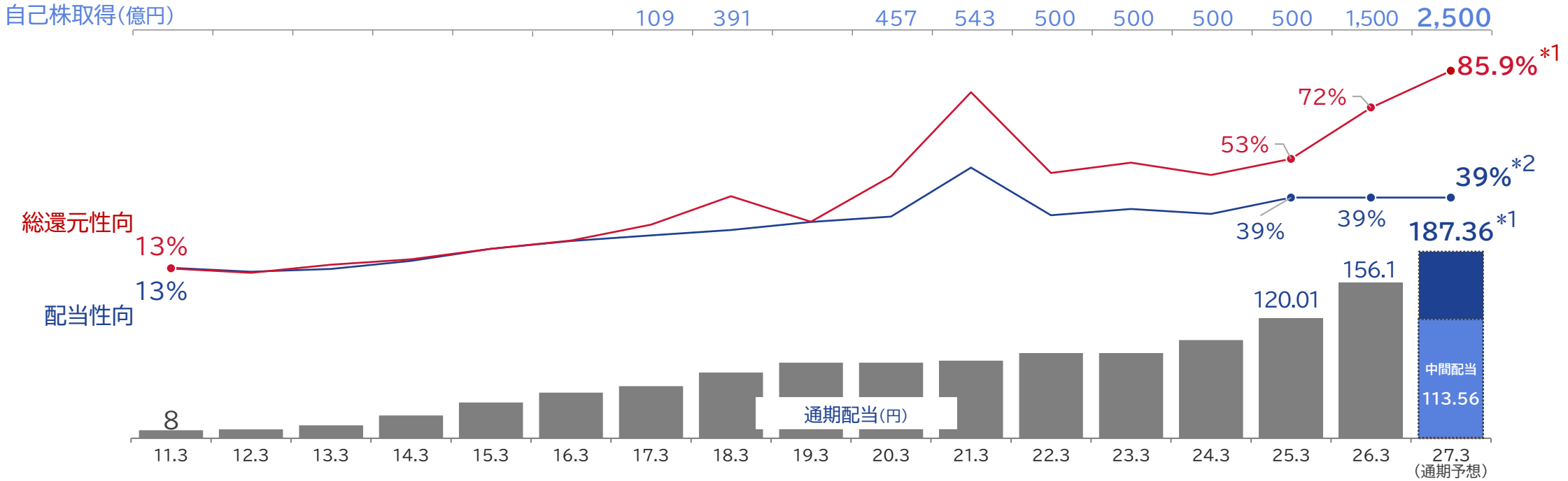


Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

株主還元

- ✓ 27.3期の1株当たり中間配当は、113.56円(調整後利益ベースEPS x 39%)。通期配当予想187.36円は変更しない
- ✓ 自己株式の取得枠2,500億円のうち1,755億円を2026年10月末までに買い付け実行済み(進捗率:70%)

1株当たり配当と還元性向



＊1 27.3期通期の「1株当たり配当」および「総還元性向」は、当期純利益が5,300億円の場合。
＊2 27.3期の「配当性向(調整後)」39%は、変更後の配当方針に基づく。なお、通期配当は、「配当性向(調整後)39%、もしくは前期配当(156.10円)のいずれか高い方」。

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

補足資料

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

統合報告書リンク(セグメント概要)

APACセグメント

セグメント業績（億円）

	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY*
セグメント利益	2,078	1,257	2,569	9,164	+7,907
セグメント資産	45,757	45,851	47,209	53,498	+6,290
ROA	3.18%	3.81%	3.85%	24.58%	+20.77pt

＊セグメント資産は前期末比

収益環境

- ✓ 国内PE市場は案件増加と獲得競争が続く中、強みを活かし事業承継・ロールアップ投資等に注力
- ✓ 豪州・ASEANは成長底堅く、「多様な事業のアジア展開」

投資・Exit等

- ✓ QIAファンドで1号案件（日本情報産業）を実行（2026年5月）
- ✓ 杉孝およびコイケをExit（いずれもQ1）

内訳（ユニット別）（億円）

（税前利益）	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY	主要増減
法人営業本部	285	213	301	125	▲88	金融収益は増加するも、前期計上の売却益（オリックス債権回収、ニッセイ・リース）の反動で減益
自動車	484	284	518	278	▲6	新規実行を伸ばすも費用増により微減。中古車マーケットは引き続き堅調
レンテック	135	89	188	65	▲24	PC等の価格が高騰する中で償却費負担増が先行し、減益
事業投資	831	474	1,049	8,894	+8,420	東芝からの持分法投資損益や、杉孝のExit実現で大幅増益
アジア・パシフィック/中華圏	345	197	512	▲198	▲395	韓国、インドなどで新規実行を伸ばすも、中華圏で減損・評価損を計上し、大幅減益

（資産）	25.3期 期末	26.3期 期末	27.3期 Q2	27.3期 前期末比	主要増減
国内	28,501	28,556	35,187	+6,631	東芝にかかる持分法投資勘定が大幅増
海外	17,256	18,653	18,312	▲341	韓国、豪州、インド等でリースを伸ばし残高拡大するも、中華圏での減損計上により減少

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

決算補足資料リンク

法人営業本部/自動車/レンテック ユニット

- ✓ 法人営業本部は、強固な顧客基盤と地域での高いプレゼンスを背景に、グループの中核的プラットフォーム
- ✓ 自動車は世界トップクラスの車両管理台数、レンテックは機器レンタルのリーディングカンパニー

法人営業本部

- 全国**60**拠点*1、約**1,400**名*2、取引先**40万**社
- 経営者の一番近くの相談相手



自動車

- **世界トップクラス**のリース等車両管理台数(**142万**台)*3
- レンタカーは、インバウンド需要も取り込み好調
- 中古車は、自社入札会場における多様な出口戦略で差別化



レンテック

- 機器レンタルの**リーディングカンパニー**
- 取り扱いレンタル機器 約**4万**種*4
- ICT機器・計測器等のレンタル・サービス



*1 本社、事務所、支店の合計(2026年7月1日時点)　*2 ミドル部門を含む(2026年3月末時点)　*3 2026年3月末時点　*4 2026年3月末時点

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

決算補足資料リンク

事業投資ユニット

✓ 事業投資の投資先は17件（2026年9月末時点）。投資規模の拡大とともに、売却益を着実に増加

投資実績

幅広いネットワークおよび豊富な経験を生かし、優れた投資実績を誇る

投資対象	投資期間
中小型企業に注力 （EV：数百億円） 「カーブアウト」「非公開化」案件も推進中	1件あたり 3年～5年以上

実行案件数（2012年以降）	投資実績
34件	IRR 約21% MOIC 約3.2倍 2012年以降の投資案件のExit（16件）の平均値*1

＊1 2022年3月末に資産譲渡した小林化工は除く

経営管理・支援
ハンズオン

買収・提携戦略
ボルトオン投資等

営業支援
オリックスのネットワーク

エキスパート人材
支援・並走

投資先企業

	投資時期	事業内容
IT情報サービス		
コイケ*2	2017年	電子材料製造業
APRESIA	2020年	ネットワーク機器の開発・製造
エイチ・シー・ネットワークス	2020年	情報ネットワークシステムの設計・構築
インフォマティクス	2020年	地理情報システムの開発
ラインズ	2024年	教育用ソフトウェア開発・販売
アイネット	2025年	ITサービス
日本情報産業*3	2026年	システム開発
ヘルスケア		
イノメディックス	2015年	医療機器の販売
DHC	2023年	食品/化粧品の研究開発・製造・販売
APEXホールディングス	2025年	医療機器の販売
その他		
コーンズ・エージー	2018年	酪農・農業関連機械のトータルエンジニアサービス
杉孝*2	2020年	足場・仮設機材のレンタル事業
HEXEL Works	2022年	総合電機設備工事
ルルアーク	2025年	カプセルトイ専門店

＊2 27.3期Q1に全株式譲渡済
＊3 2026年5月、OQCIファンド投資による第1号案件

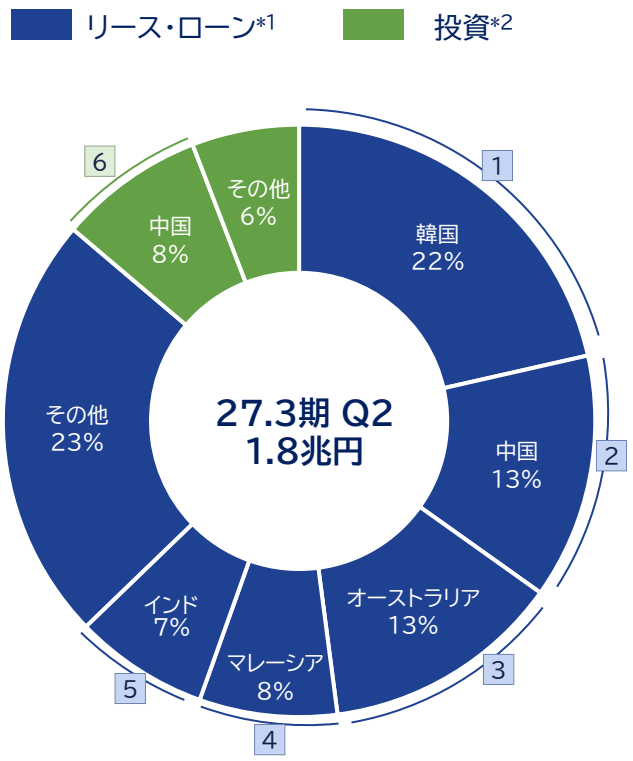
Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

決算補足資料リンク

アジア・パシフィックおよび中華圏ユニット

✓ 産業用機械や自動車のリースを中心に、ローン、および中華圏等でPE投資などを展開

セグメント資産 -事業別内訳-

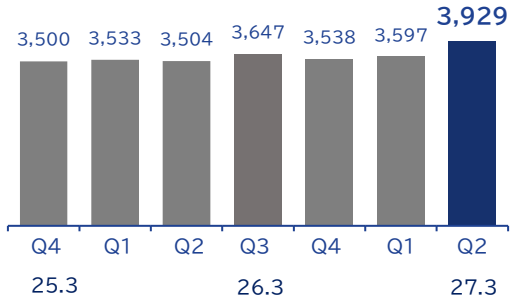


セグメント資産 –主要国・地域別推移-

（億円）

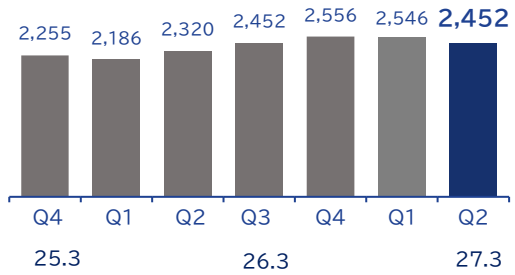
1 韓国

▷ 自動車リース、リース、融資



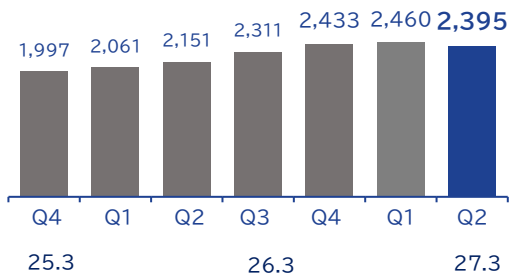
2 中国

▷ リース、レンタル



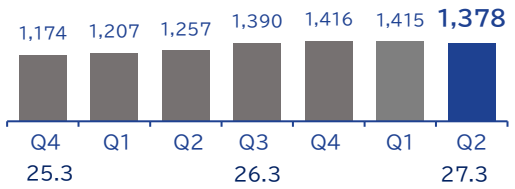
3 オーストラリア

▷ 自動車リース、トラックレンタル



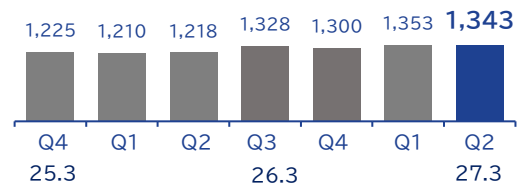
4 マレーシア

▷ リース、融資



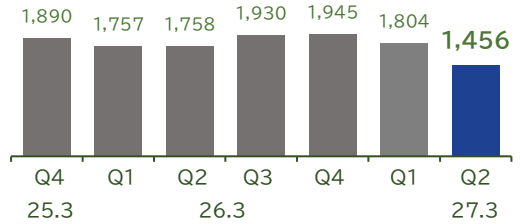
5 インド

▷ 自動車リース、リース、ローン



6 中国

▷ エクイティ投資



*1 リース純投資、営業貸付金、オペレーティング・リースなど
*2 投資有価証券、関連会社投資など（関連会社投資のうち、リース等を主事業とするグループ会社等の持分は「リース・ローン」に含む）

- 中国へのエクスポージャーは3,907億円（当セグメント全体の21%）
- 台湾へのエクスポージャーは 867億円（同5%、上記「セグメント資産」円グラフの「リース・ローン」および「投資」の「その他」に含む）
- 香港へのエクスポージャーは 760億円（同4%、上記「セグメント資産」円グラフの「リース・ローン」の「その他」に含む）

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

統合報告書リンク(セグメント概要)

インフラ セグメント

セグメント業績（億円）

	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY*
セグメント利益	1,495	2,010	2,825	821	▲1,189
セグメント資産	34,980	34,932	35,751	36,263	+513
ROA	3.49%	8.31%	5.98%	3.65%	▲4.66pt

＊セグメント資産は前期末比

収益環境

✓ 航空機は需給ひっ迫が継続、船舶はバルカー中心に市況堅調。資産構成の改善や管理受託の拡大で収益性を向上

投資・Exit等

✓ 航空機パーツアウト大手・AerFin全株式の取得を11月2日に完了

内訳(ユニット別)（億円）

(税前利益)	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY	主要増減
不動産(含:大阪IR)	894	605	1,024	320	▲285	前期Q1に大型売却益(ホテル)を計上した反動で減益
環境エネルギー	▲73	1,186	1,135	111	▲1,075	前期Q2に計上したGreenko売却評価益の反動や、国内電力取引量減少により減益
輸送機器	674	220	666	390	+171	Avolonが機体売却益を伸ばしたほか、船舶の用船料・売却益の伸びもあり、増益

(資産)	25.3期 期末	26.3期 期末	27.3期 Q2	27.3期 前期末比	主要増減
不動産(含:大阪IR)	12,498	13,450	13,350	▲99	概ね横ばい
環境エネルギー	10,162	10,188	10,481	+294	Elawanにおける発電所開発の進捗により、増加
輸送機器	12,320	12,113	12,432	+318	持分法投資勘定(Avolon)の拡大や船舶投資が進んだほか、航空機の保有機体増加により、増加

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

統合報告書リンク(セグメント概要)

インフラ セグメント

内訳(ユニット別)の明細 (億円)

(税前利益)	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY	備考(上半期実績 / Q2末時点)
大京 <不動産ユニット>	242	138	243	82	▲56	新築分譲戸数:406戸(26.3通期:1,331戸)
公共インフラ <不動産ユニット>	158	93	207	65	▲28	9月中国人訪日客数が前年同月比▲35万人の中、関西3空港の国際線旅客数は同▲19万人
国内 <環エネユニット>	▲114	126	74	34	▲91	発電容量(ネット):0.8GW
海外 <環エネユニット>	41	1,060	1,061	77	▲983	発電容量(ネット):2.8GW
航空機 <輸送機器ユニット>	193	66	217	93	+26	保有機数:60機/管理機数210機
Avolon <輸送機器ユニット>	276	114	246	201	+87	保有・管理機数:593機、発注機:749機
船舶 <輸送機器ユニット>	205	39	202	96	+57	保有船数:65隻

(資産)	25.3期 期末	26.3期 期末	27.3期 Q2	27.3期 前期末比	備考
大京	4,028	4,170	4,285	+115	-
公共インフラ	492	636	607	▲29	-
国内 <環エネユニット>	3,030	2,917	2,974	+57	-
海外 <環エネユニット>	7,131	7,271	7,507	+236	-
航空機	4,732	5,121	5,230	+109	-
Avolon	3,973	4,037	4,142	+105	-
船舶	3,615	2,955	3,061	+105	-

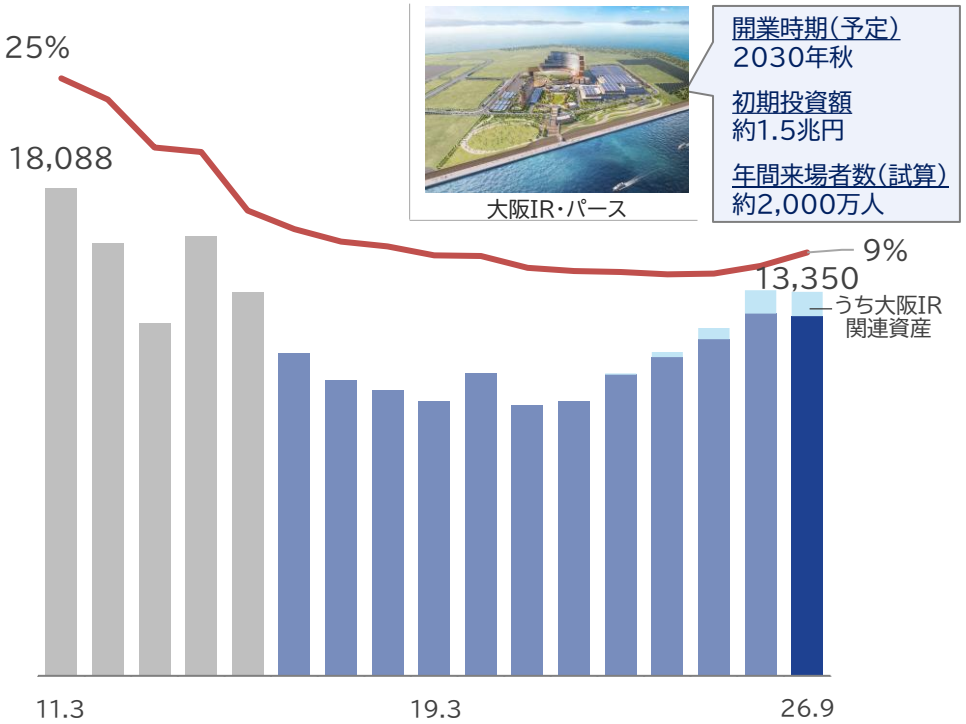
Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

大阪IR区域整備計画概要リンク
動画「関西発の新たな価値創造」リンク
決算補足資料リンク

不動産ユニット

- ✓ 不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメントを展開
- ✓ 保有資産規模を緩やかに伸ばしながら、オペレーションでの差別化やAUMの拡大により、更なる収益性の向上を図る

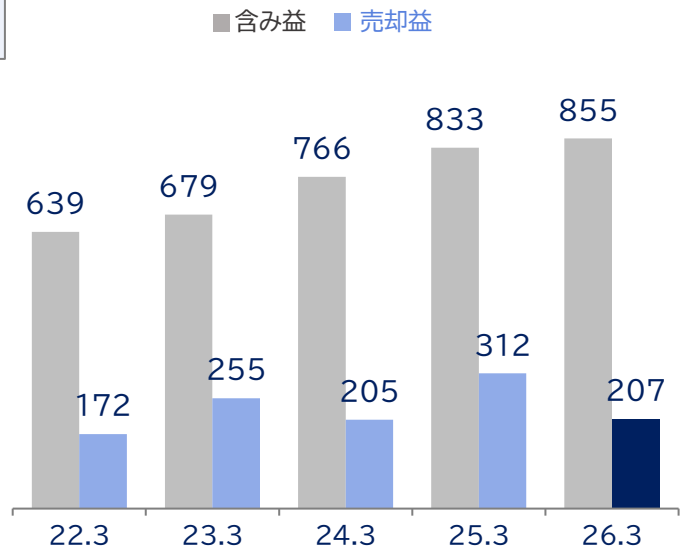
セグメント資産額と4セグ合計に対する比率の推移*1 *2



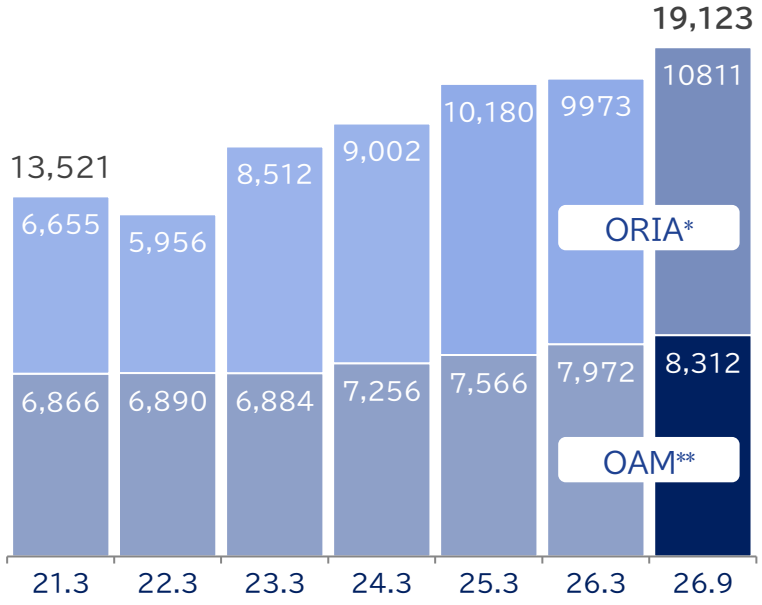
大阪IR・パース

開業時期(予定)
2030年秋
初期投資額
約1.5兆円
年間来場者数(試算)
約2,000万人

賃貸不動産の含み益、売却益*3



AUMの推移 （億円）



*1 25.3期Q1より、セグメント資産の対象に現預金や社用資産等を含める方法へ変更(過去に遡って適用済)。ただし、11.3期から13.3期は遡及適用の対象外
*2 27.3期Q1より、公共インフラ(旧コンセッション)ユニットおよび従来セグメント外に計上していた一部事業を不動産ユニットへ計上する形へ変更(23.3期まで遡及適用)
*3 含み益には不動産以外のセグメントの賃貸不動産を含み、運営事業の資産は含まない。売却益は不動産セグメントの賃貸不動産に限り、運営事業の資産は含まない

* オリックス不動産投資顧問㈱(私募ファンド)
** オリックス・アセットマネジメント㈱(J-REIT)

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

決算補足資料リンク

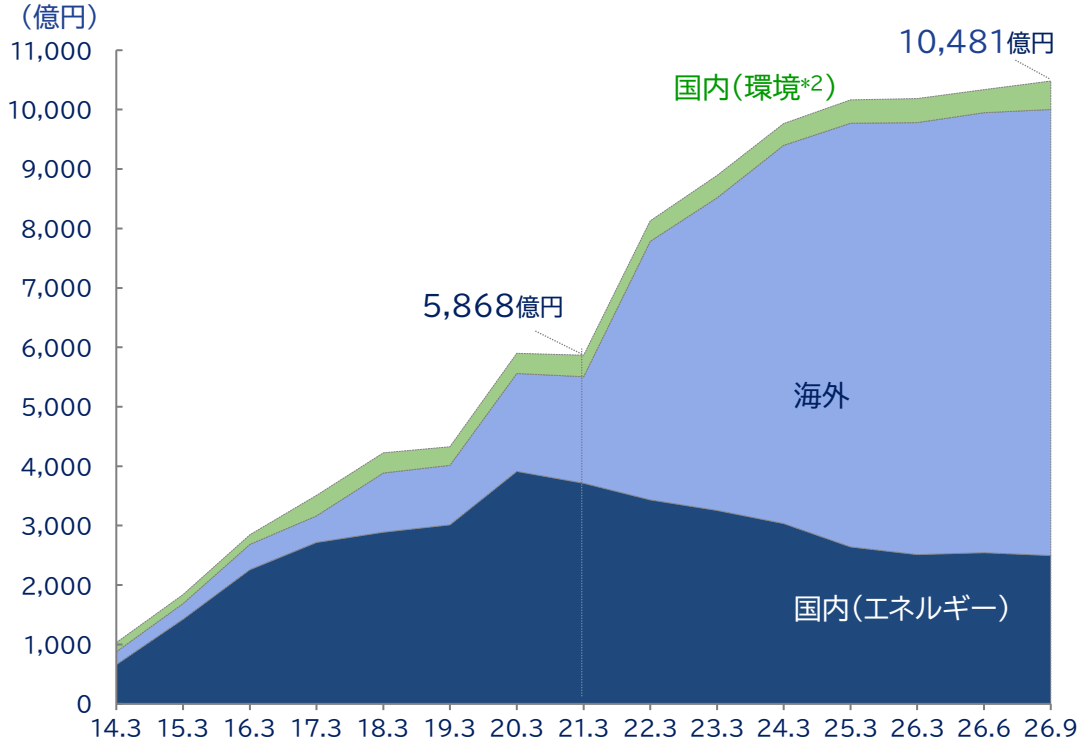
環境エネルギー ユニット

※ 環境エネルギー事業・サービスの概要はこちら

- ✓ 稼働中の設備容量は、全世界で3.6GW*1
- ✓ 21.3期以降、海外を中心に、太陽光・陸上風力・水力発電の設備容量を拡大

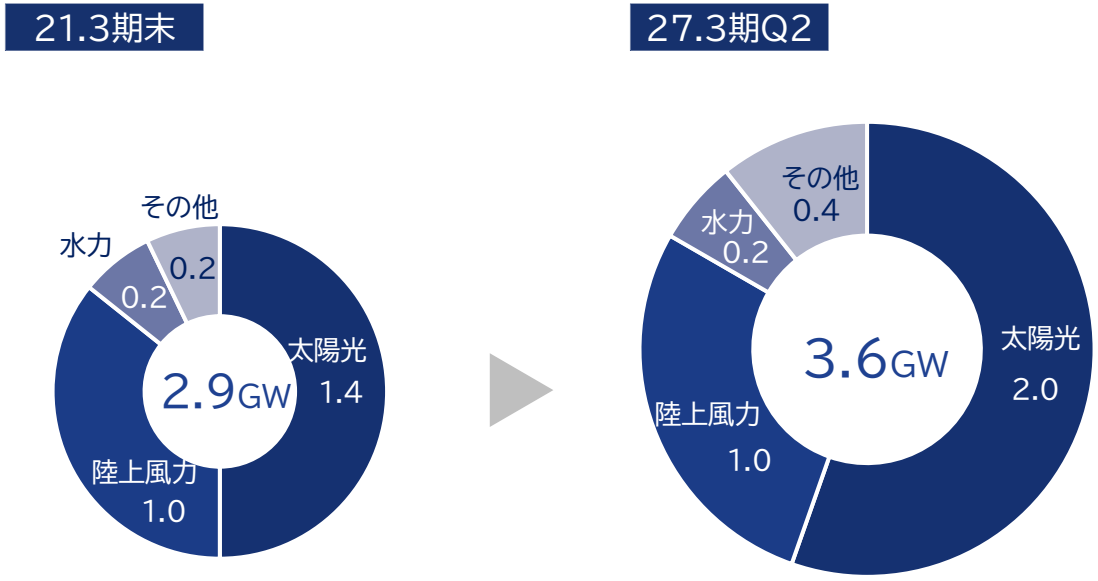
*1 建設段階など稼働前の設備容量は含まない。ORIXの持分比率等を考慮後

セグメント資産の推移



*2環境：廃棄物処理、資源リサイクルなど

再エネ設備容量*1 の推移（電源種類別）



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

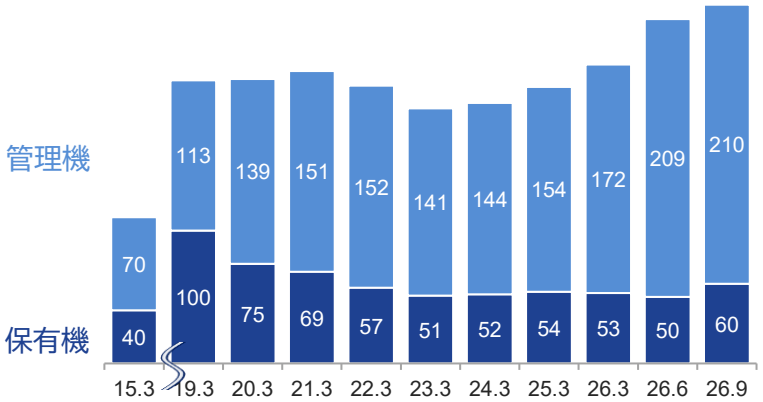
輸送機器ユニット

決算補足資料リンク

（2026年9月末時点）

オリックス航空機リース事業
（1978年より展開）

機数の推移

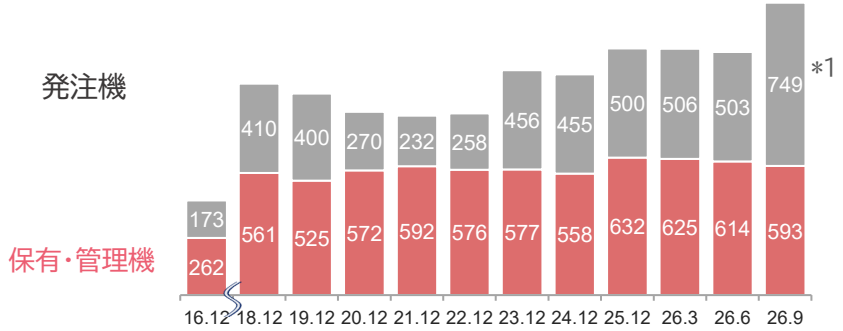


（保有機体の平均機齢：5.5年、平均残リース期間：5.6年）

機種	保有60機	ナローボディ機 87%	
		ワイドボディ機 13%	
メーカー	保有60機	エアバス	60%
		ボーイング	40%
地域	合計100%	Americas	53%
		EMEA	28%
		APAC	19%

Avolon
（2018年に30%出資）
【S&P: BBB / Moody's: Baa2 / Fitch: BBB】

機数の推移



（保有機体の平均機齢：6.8年、平均残リース期間：6.9年）

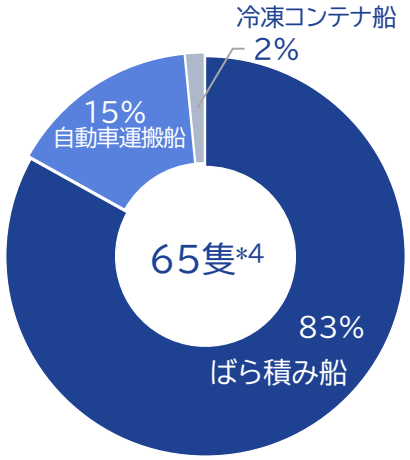
*1 2026年10月9日発表のエアバス・ボーイングへの新規発注を含む

保有561機	ナローボディ機 74%		*2
	ワイドボディ機 25%		
保有561機	エアバス	68%	*3
	ボーイング	29%	
簿価ベース	APAC	46%	
	EMEA	35%	
	Americas	19%	

*2 リージョナルジェット機が1% *3 エアバス/ボーイング以外のメーカーが3%

船舶事業
（1971年より展開）

フリート構成（船種別）



（保有船の平均船齢：6.1年）

オリックス船舶事業	・社船事業、ファイナンス事業、フィー事業 ・50年以上にわたる事業ノウハウ
三徳船舶（100%出資）	・船主業および船舶運航管理業 ・他社保有船の運航管理業務も受託
ソメック（62.5%出資）	・双日の船舶トレーディング事業がルーツ ・用船仲介、新造船・中古船売買仲介 等

*4 発注残（5隻）を含む。

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

統合報告書リンク(セグメント概要)

欧米セグメント

セグメント業績（億円）

	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY*
セグメント利益	843	203	640	918	+715
セグメント資産	22,629	26,370	27,410	27,506	+96
ROA	2.79%	1.22%	1.90%	5.14%	+3.92pt

＊セグメント資産は前期末比

収益環境

- ✓ ORIX EuropeがAUM拡大を継続
- ✓ USAとEuropeが地域/商品をクロスセルしアセマネ推進

投資・Exit等

- ✓ ORIX USAがPE投資先のPeak(Q1)とNetwork Connex(Q2)をExit

内訳(ユニット別)（億円）

(税前利益)	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY	主要増減
ORIX USA	399	▲18	10	524	+542	PE投資先の売却益・評価益を計上し、大幅増益
ORIX Europe	444	221	631	394	+174	AUM拡大を続けており、AM fee伸長により、大幅増益

AUM（USA:十億USD、Europe:十億ユーロ）

	25.3期 期末	26.3期 期末	27.3期 Q2	27.3期 前期末比	備考
ORIX USA	30.0	31.7	29.0	▲2.7	-
ORIX Europe	356.1	397.3	471.7	+74.5	-

＊いずれもAUAを含まない

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

決算補足資料リンク

ORIX USAユニット

- ✓ 米国ミドル・マーケットに強みを持ち、クレジット、不動産、PE、資産評価サービスを展開する統合型プラットフォーム
- ✓ 強固なバランスシートと外部投資家資金を組み合わせたハイブリッド戦略の追求により、利益成長の実現を図る

ビジネスライン

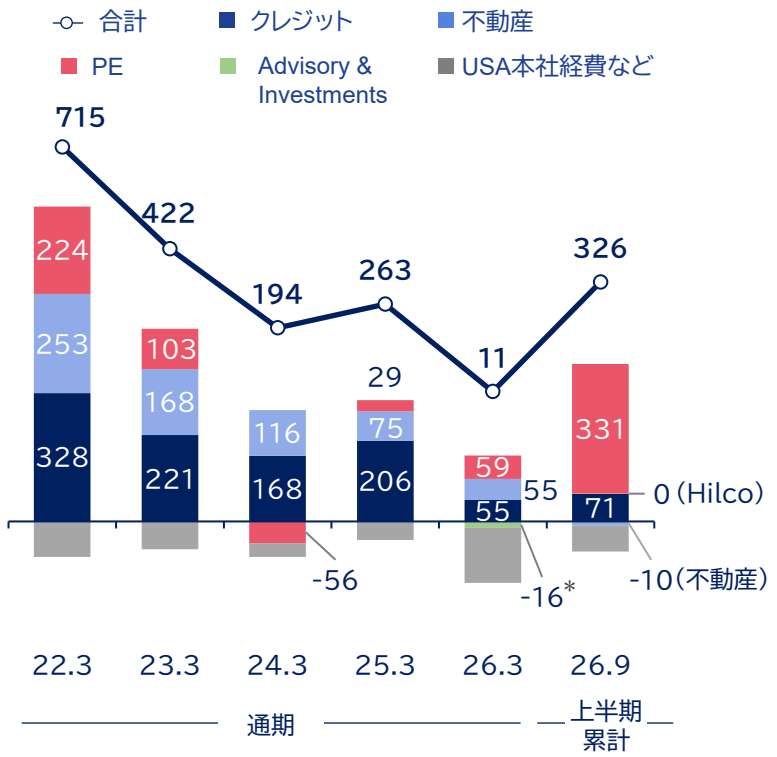
クレジット
- NXT Capital

不動産
- Lument
- Boston Financial Investment Management

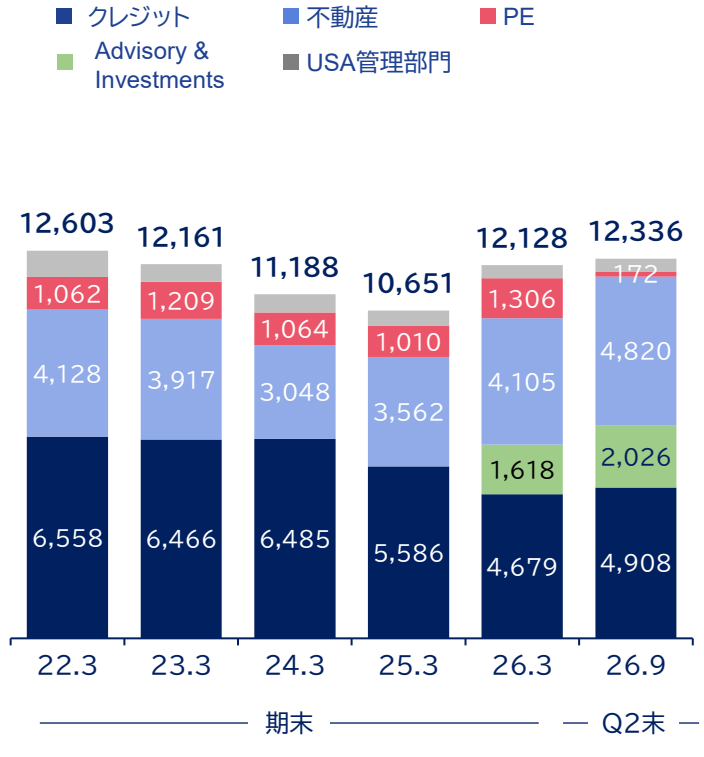
事業投資（PE）
- ORIX Capital Partners (fund)
- ORIX Private Equity Solutions (principal investment strategy)

Advisory & Investments
- Hilco Global

セグメント利益 （USD, Mn）



セグメント資産 （USD, Mn）



＊ 26.3期のHilcoの利益は2025年9月からの7カ月分

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

決算補足資料リンク

ORIX Europeユニット

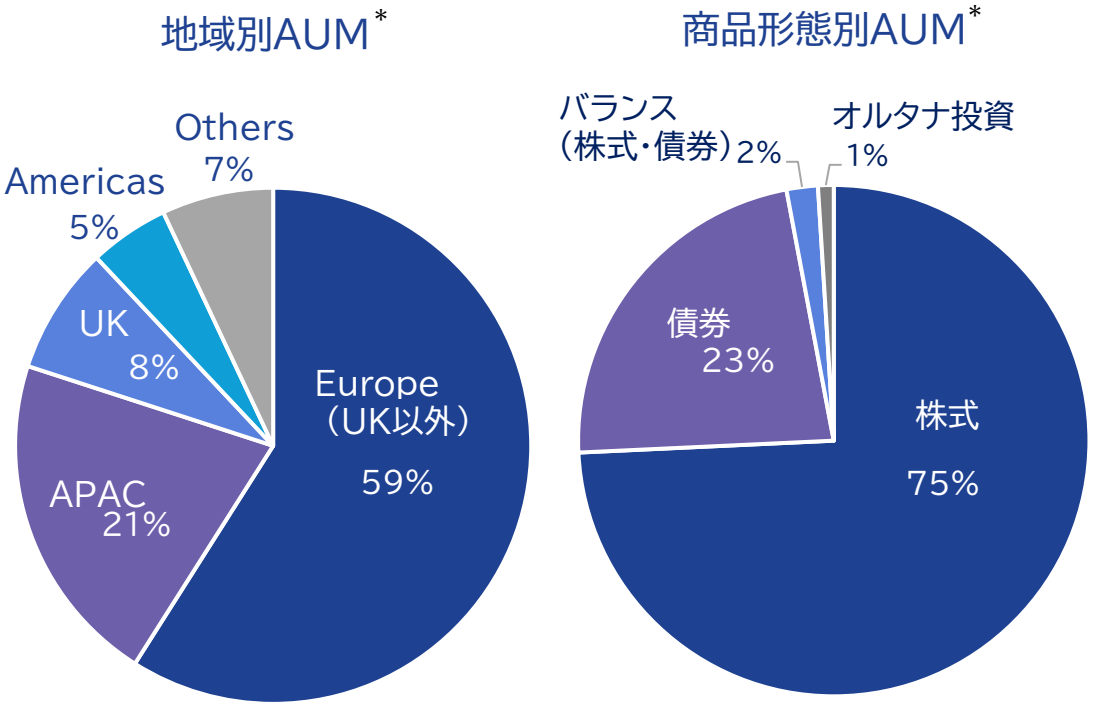
- ✓ 株式・債券の他、コモディティやオルタナ等資産のアセットマネジメント事業も幅広く展開
- ✓ 運用ノウハウと投資家ネットワークを活かし、当社グループのアセットマネジメント事業をリード

主要グループ各社について

	本拠地	運用の特徴	設立（取得）	AUM/AUA
ROBECO	ロッテルダム	株式・債券運用、サステナビリティ投資の資産運用会社	1929年（2013年）	EUR 406 Bn
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年（2013年）	USD 149 Bn
Harbor Capital Advisors	シカゴ	サブアドバイザーモデルによる運用	1983年（2013年）	USD 72 Bn
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社（CTA）	1991年（2013年）	USD 5 Bn
Gravis Capital Management	ロンドン	オルタナティブ資産運用会社	2008年（2021年）	GBP 2 Bn

＊各社ウェブサイトより（2026年10月末時点の開示情報）。

ROBECOについて



＊AUAを含まない　＊2026年6月末時点

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

保険セグメント

セグメント業績（億円）

	25.3期 通期	26.3期 上半期	26.3期 通期	27.3期 上半期	27.3期 YoY
セグメント利益	744	509	1,029	571	+62
セグメント資産	30,092	31,406	31,983	32,071	+88
ROA	1.80%	2.38%	2.39%	2.54%	+0.16pt

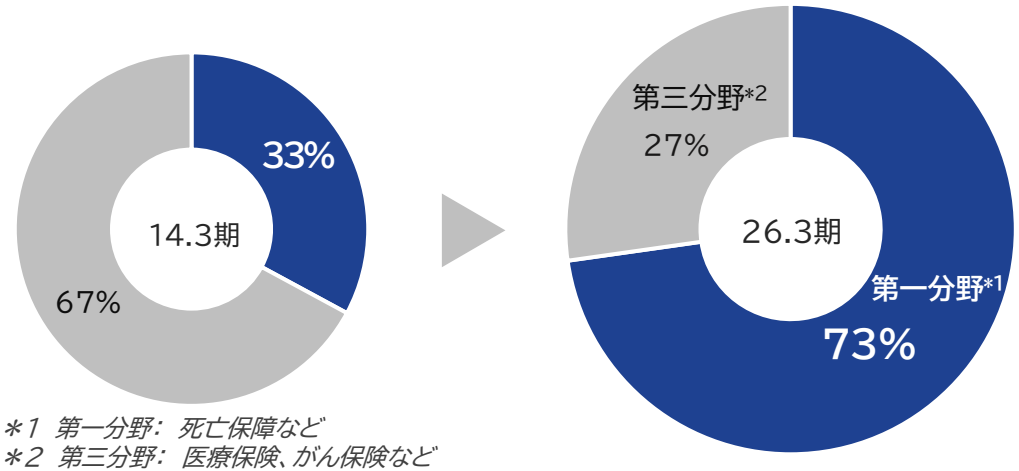
＊セグメント資産は前期末比

収益環境

- ✓ 法人/富裕層向けの高額契約獲得が順調
- ✓ 資産運用の高度化で運用関係損益も好調
- ✓ オリックス法人営業との連携強化、同チャネルからの販売が伸展

商品ポートフォリオ　新契約年換算保険料

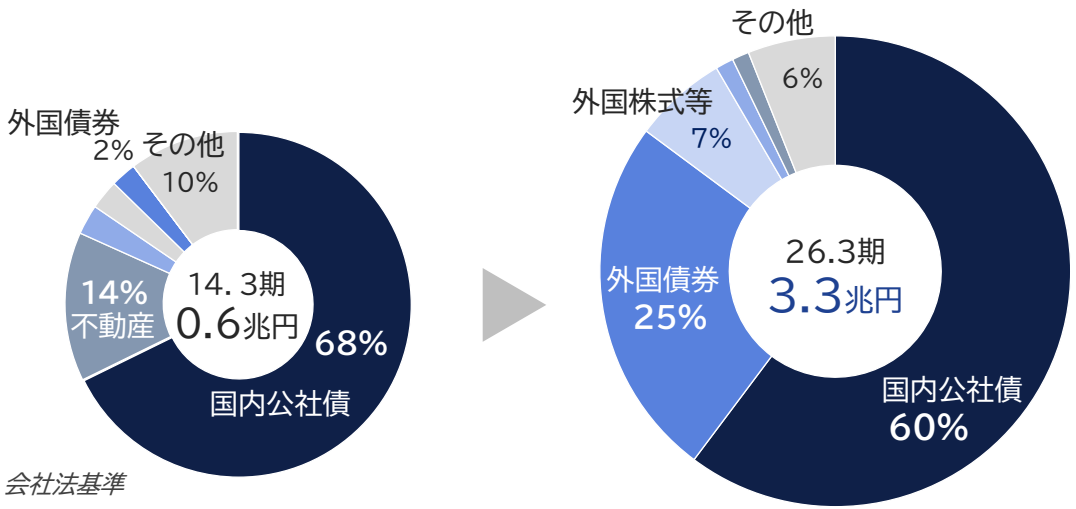
契約単価の高い第一分野の商品を投入し、医療保険などの第三分野商品の販売が大半を占めた従前のビジネスモデルから脱却。法人/富裕層開拓を通じ新契約年換算保険料を伸展



＊1 第一分野：死亡保障など
＊2 第三分野：医療保険、がん保険など

運用資産ポートフォリオ　運用資産残高*3

保険料収入の伸展を背景に運用資産を順調に積み増し、運用手段を多様化したことから運用収益は増加

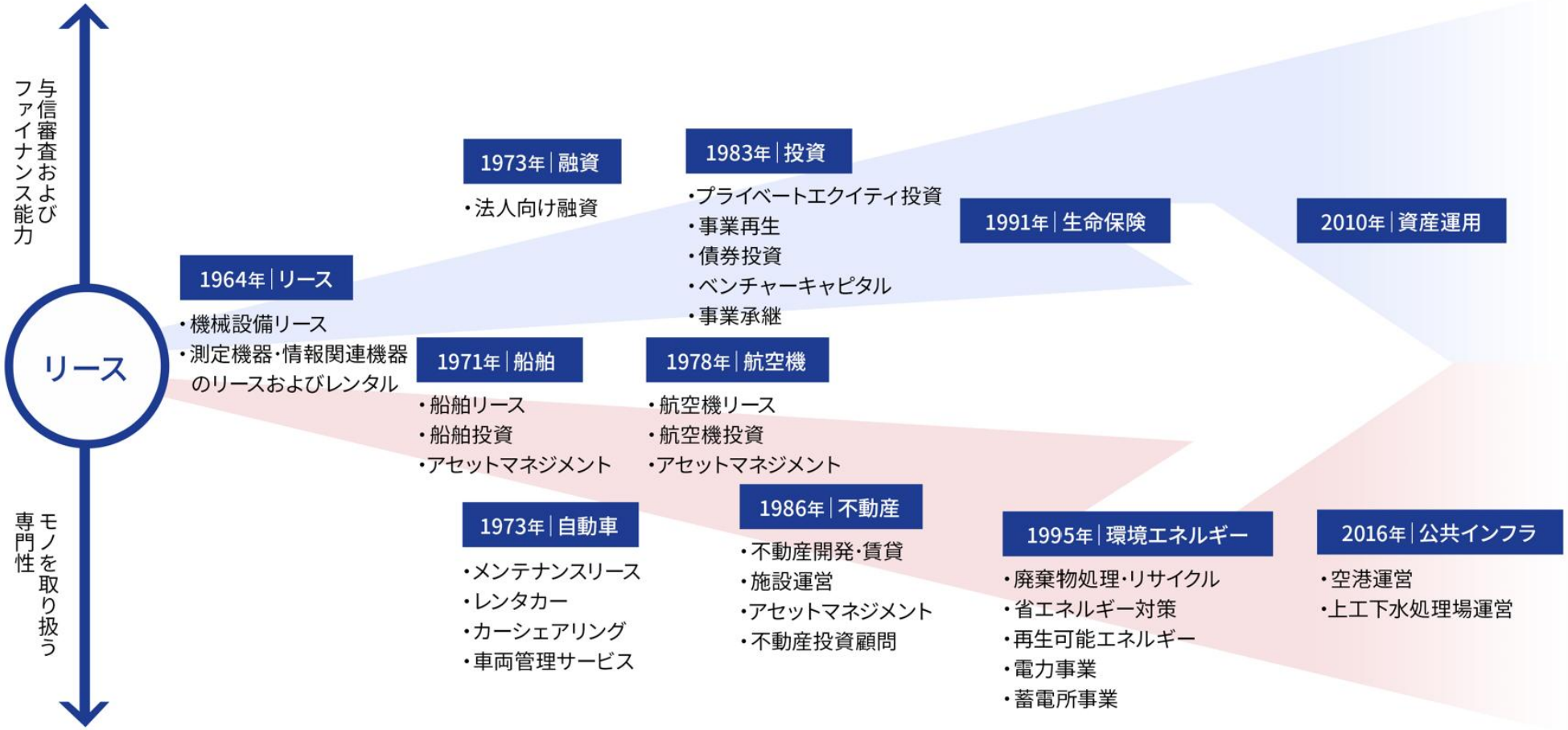


＊3 会社法基準

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

オリックスについて　事業の専門性とグループの総合力

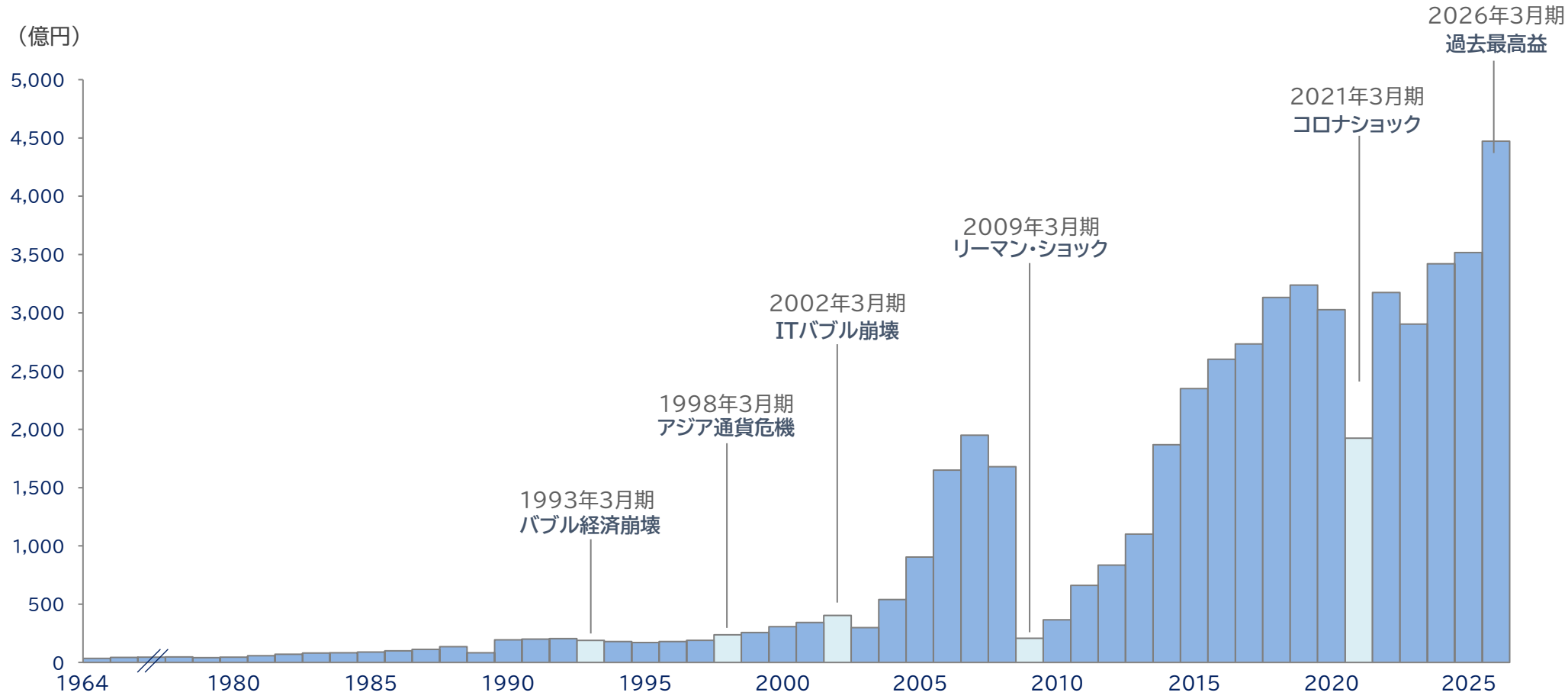
✓　「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

オリックスについて　持続的な成長

✓　61年間毎期黒字を計上（以下は「当社株主に帰属する当期純利益」の推移）



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

財務目標

2026年5月公表資料

- ✓ 「ビジネスモデル変革」「ポートフォリオの最適化」「新規事業創出」「リスク管理体制の高度化」で、長期ビジョン実現を目指す
- ✓ 26.3期（3か年計画・1年目）は着実に進捗、27.3期（同2年目）は5,300億円の純利益、11.7%のROEを予想

	35.3期 長期ビジョン	28.3期 目標	27.3予想	26.3期実績
ありたい姿	「事業価値創造」と「顧客課題解決」を通じて、社会にインパクトをもたらす。			
ターゲット（経営指標）	ROE 15.0% 純利益 1兆円	ROE 11.0%	ROE 11.7% 純利益 5,300億円	ROE 10.4% 純利益 4,473億円
財務健全性	A格に相応しい財務基盤を維持			
① 配当性向 ② 自社株買い	企業価値成長に相応しい株主還元	① 39% or 前期実績の高い方 ② ROE11%達成を重視、機動的に設定	① 39%（187.36円/株） ② 2,500億円	① 39%（156.10円/株） ② 1,500億円
AUM*	アセマネfeeが成長ドライバー	100兆円（着実な拡大フェーズ）	-	81兆円

＊AUAを含まない。

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

調整後ROE（参考値）

- ✓ 「キオクシア売却評価益（税後）」の影響を踏まえ、調整後ROEを参考値として併記
- ✓ ROEは、27.3期と28.3期で大きく変動する見通し

ROEと調整後ROE（27.3期上半期実績、年率換算）

ROE

税後純利益 8,562億円 ÷ 株主資本（平残）*1 47,879億円 = ROE*2 35.8%

調整後ROE（参考値）

（税後純利益 8,562億円 − キオクシア売却評価益（税後） 5,387億円）÷（株主資本（平残） 47,879億円 − 株主資本（平残） 2,693億円 キオクシア売却評価益（税後））= 調整後ROE*2 14.1%

*1 期首 44,825億円、Q2末 50,933億円（+6,108億円）の平残　*2 年率換算後の数値。

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

27.3期の重点施策

- ✓ 長期ビジョン実現に向けた3つの「重点施策」を継続推進
- ✓ 今期より、**新経営体制へ移行**するとともに、**「ビジネスモデル変革」**を重要施策として追加

長期ビジョン実現に向けた重点施策（継続）

ポートフォリオの最適化 | **リスク管理の高度化** | **新規事業の創出**

＋

ビジネスモデルの変革

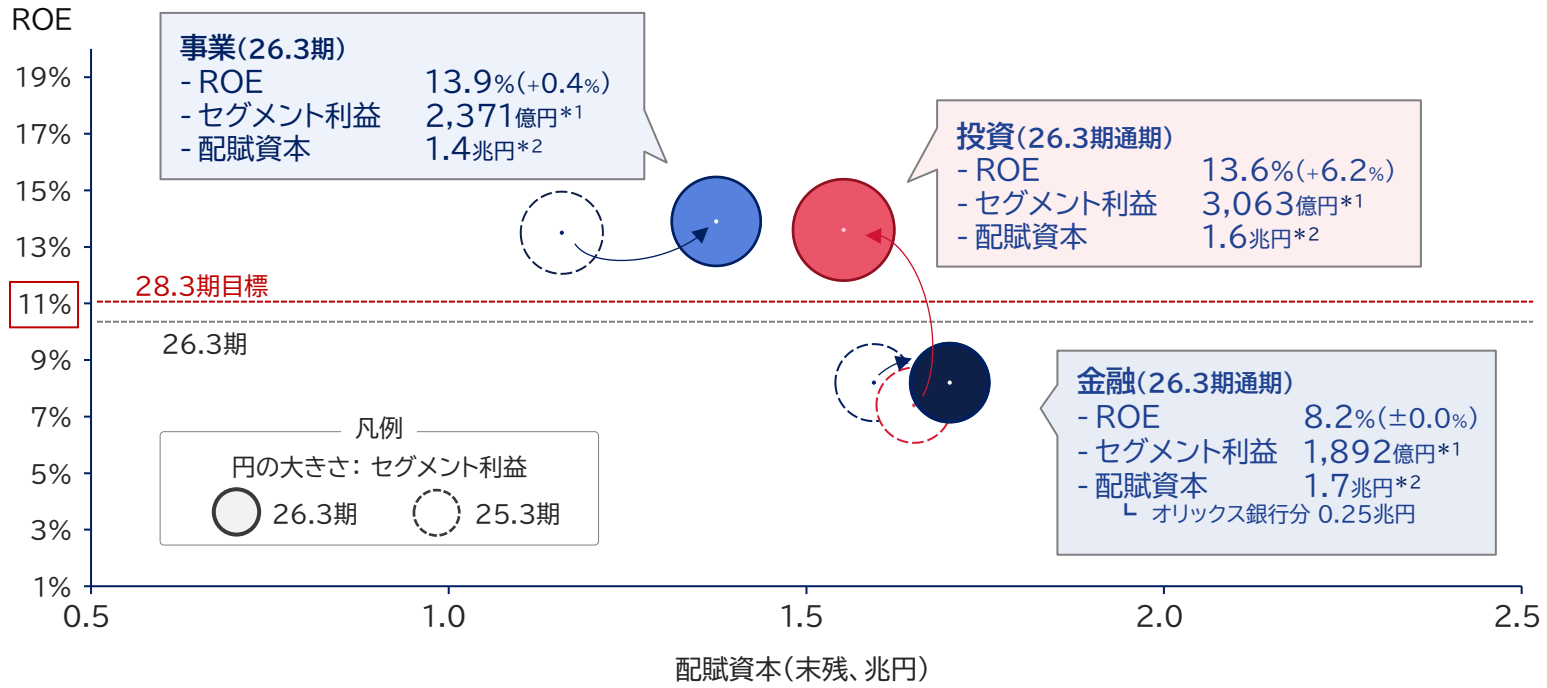
強みとする2つのビジネスモデル「事業価値創造モデル」と「顧客課題解決モデル」をシンカ（深化と進化）する

- アセットマネジメント化を前提とする代替資産への投資を加速し、AUMを成長
- 顧客ニーズを起点に、提供サービスと運営受託資産を拡充し、フィー収益を成長

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

26.3期実績｜ROEと株主資本・3分類

- ✓ 26.3期のROEは10.4%、前期比+1.6%
- ✓ 「投資」と「事業」がキャピタルリサイクリングを推進し、ROEを押し上げ



26.3期

連結ROE :10.4%

株主資本 :4.5兆円

└ 自己株式は取得枠1,500億円を全て消化済み。また、発行済み株式数の2%を超過する分を消却済み

25.3期

連結ROE :8.8%

株主資本 :4.1兆円

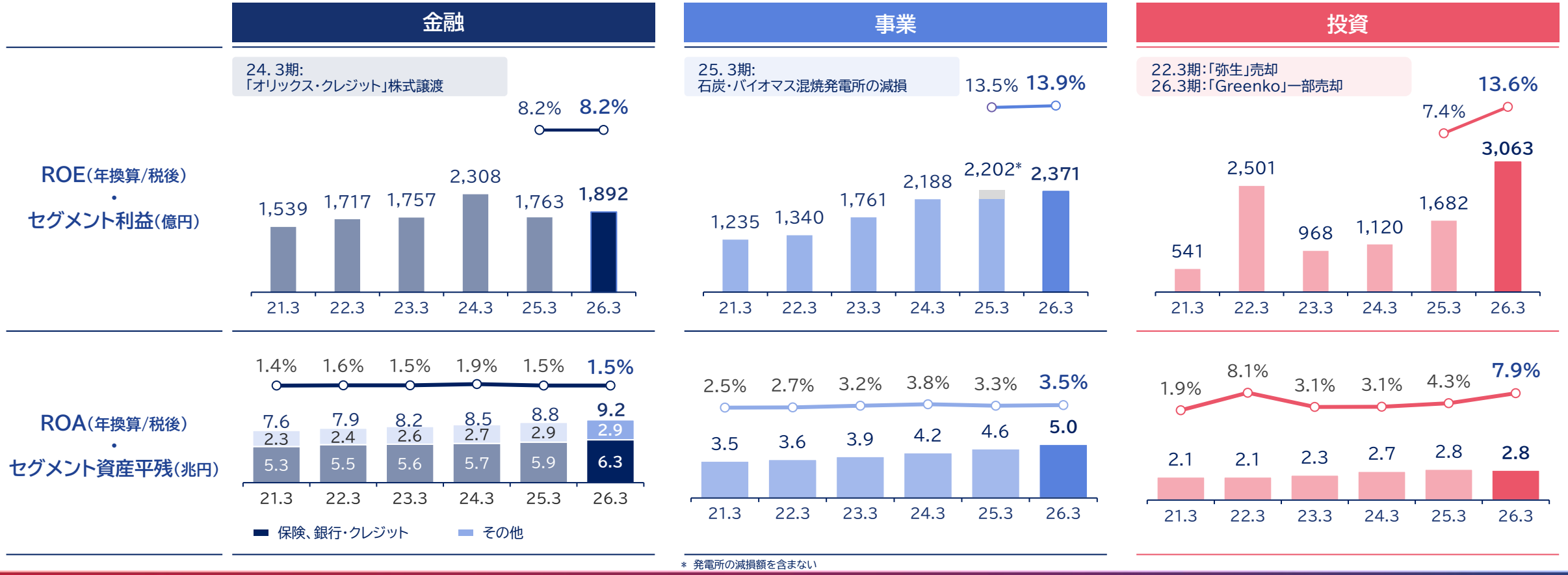
＊1 セグメント利益は税引前の金額(一方、ROEは税引後利益で計算)

＊2 3分類合計の配賦資本は4.6兆円。管理会計上の数字ゆえ、連結BSの株主資本4.5兆円とは一致しない

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

26.3期実績｜収益性・効率性・3分類

- ✓ 「金融」：中長期的に安定的な収益力を維持
- ✓ 「事業」：ROAは5年間で＋1.0%（21.3期: 2.5%→ 26.3期: 3.5%）、資産拡大を上回るペースで収益性を向上
- ✓ 「投資」：26.3期はROEが前期比＋6.2%、ROAが同＋3.6%。資産の価値創出と回転で効率性を向上



＊ 発電所の減損額を含まない

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

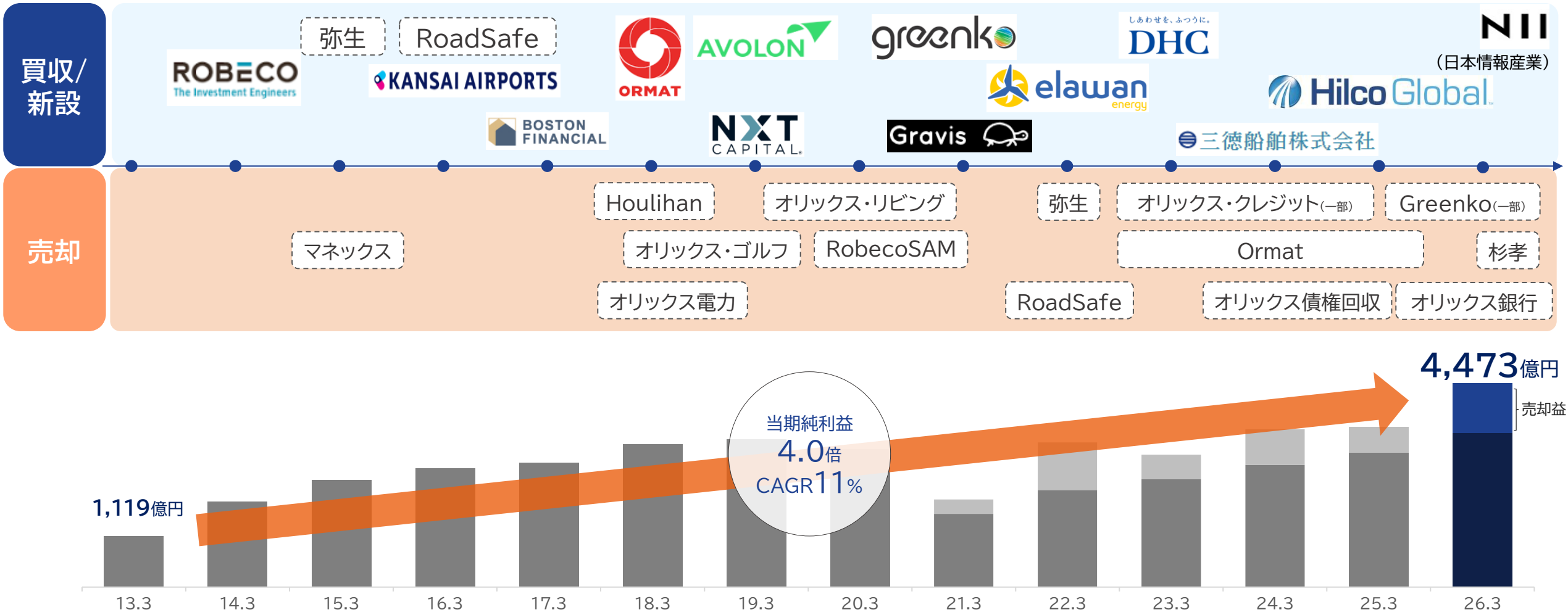
4セグメントと3分類｜27.3期～

4セグメント	金融 - ストック型、利ザヤが収益源-	事業 - 現場オペレーションまで-	投資 - リサイクリングの主な対象-
	3分類		
APAC	法人営業本部（ファイナンス部門） アジア・パシフィック/中華圏 （ファイナンス部門）	自動車、レンテック	法人営業本部（事業承継投資先） 国内PE アジア・パシフィック/中華圏（投資）
インフラ		不動産運営、不動産AM、大京、大阪IR 公共インフラ（旧コンセッション） 環境エネルギー 航空機、船舶	不動産開発・投資 Avolon
欧米	ORIX USAファイナンス部門	ORIX USA・Hilco Global ORIX Europe	ORIX USA PE
保険	保険	-	-

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

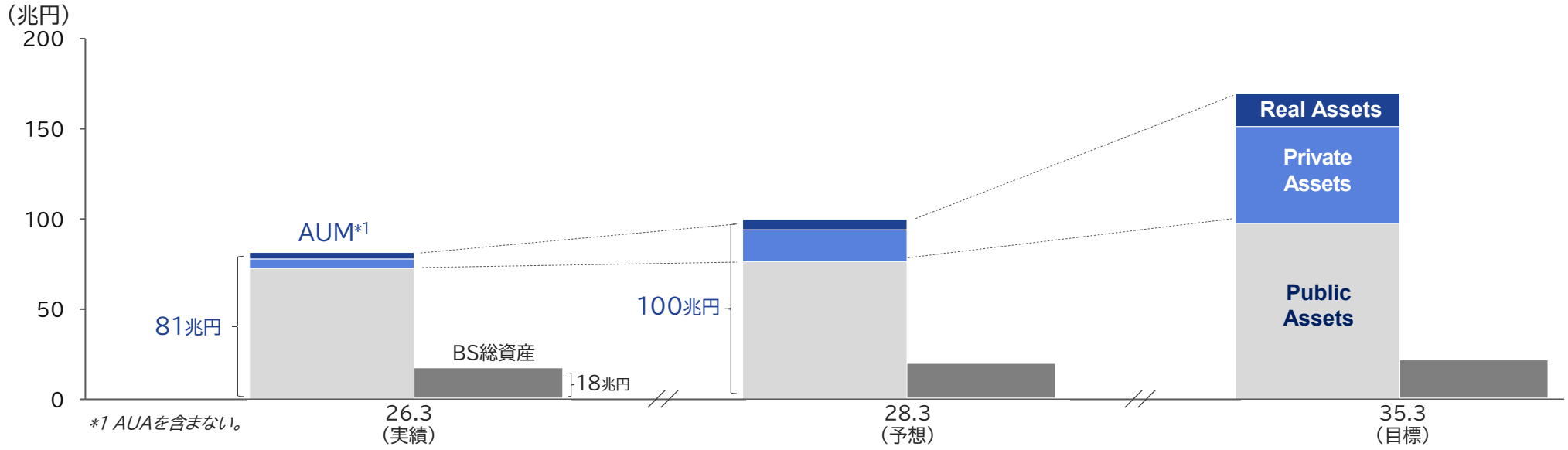
キャピタルリサイクリング　利益成長

✓　キャピタルリサイクリングを加速、当期純利益は4.0倍、CAGR11%(26.3vs13.3)



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

- ✓ オリジネーション能力とバリューアップモデルを活かし、アセマネfeeを成長
- ✓ Private AssetsとReal Assetsを中心に、第三者資金を積極的に取り入れ、AUMを拡大



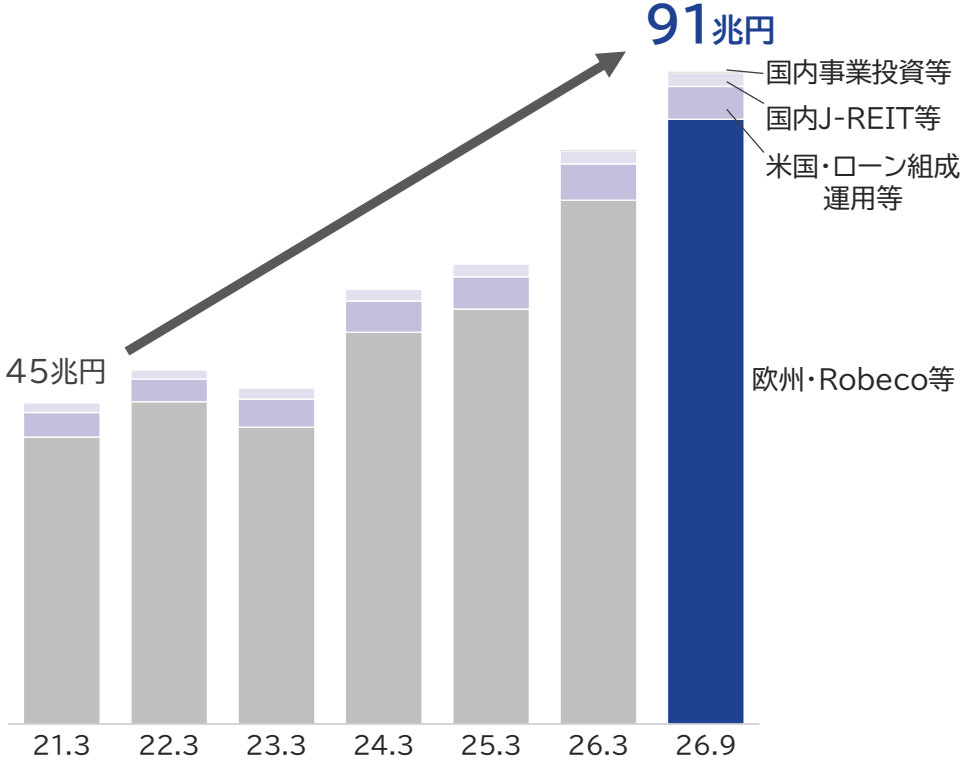
Real Assets	不動産REIT/私募ファンド、大京ユニットのマンション管理*、再エネファンド、太陽光発電所の運営管理*、自動車メンテナンス*、航空機の管理　等 *＊印のある事業は、AUMにはカウントせず。*
Private Assets	国内PEファンド、銀行の信託財産、Private Credit　等
Public Assets	主にORIX Europe各社が運用する株式・債券　等

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

オリックスグループ｜アセットマネジメント

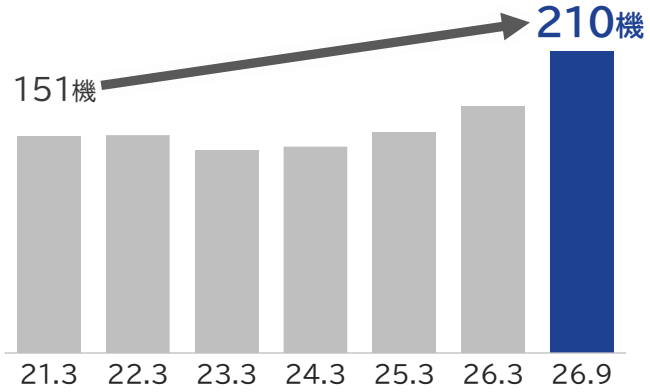
- ✓ 欧州・米国を中心に資産運用ビジネスを拡大、ベース利益を成長
- ✓ 株式、債券、オルタナティブ資産に加え、多様な資産の管理にも注力
  （再生可能エネルギー、航空機、マンション管理、自動車は国内トップクラス）

株式・債券・オルタナティブ資産のAUM＊

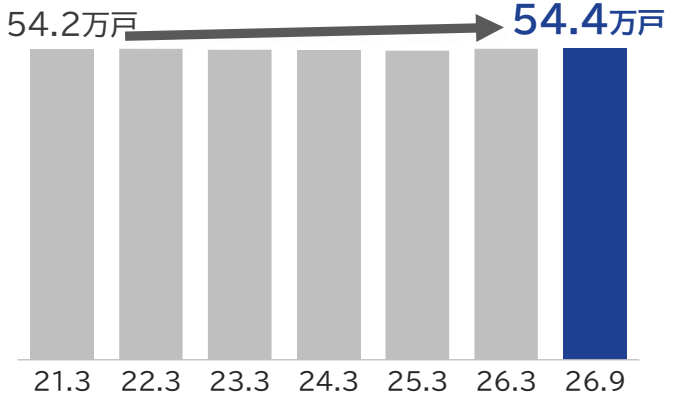


＊AUAを含まない。為替はそれぞれ期末時点

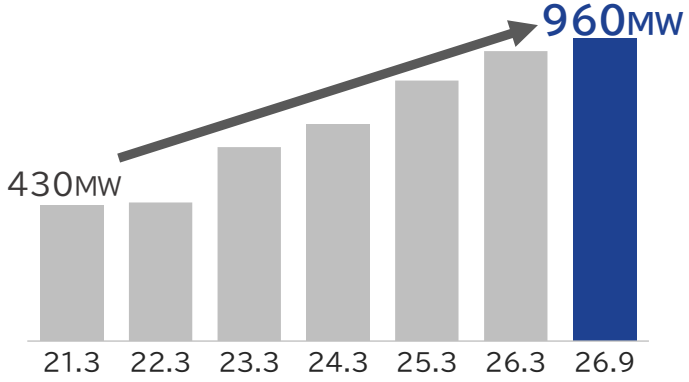
航空機・機体マネジメント



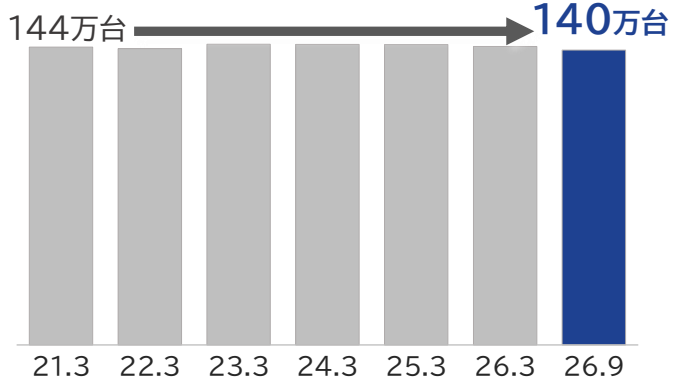
大京ユニット・マンション管理受託



メガソーラー発電所/蓄電所・運営管理



自動車・車両メンテナンス



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

財務戦略

連結BS・財務指標

（億円）

	26.3期 期末	27.3期 Q2末	増減
総資産(非継続事業を含む)	180,028	156,066	▲23,962
長短借入債務および預金	63,456	61,091	▲2,365
金融機関借入	72%	73%	+1%
国内社債	9%	8%	▲1%
外債	18%	18%	-
円貨(平残)	52%	51%	▲1%
外貨(平残)	48%	49%	+1%
長期借入比率(預金を除く)	91%	91%	-
保険契約債務および保険契約者勘定	19,437	19,539	+102
株主資本	44,825	50,933	+6,108
株主資本比率	24.9%	32.6%	+7.7%
D/E比率(預金を除く)	1.4倍	1.2倍	▲0.2倍

金利・為替感応度 ＊ 1%の金利上昇ないし1円の円安が1年間に渡り続く場合の税引前利益に対する感応度

金利

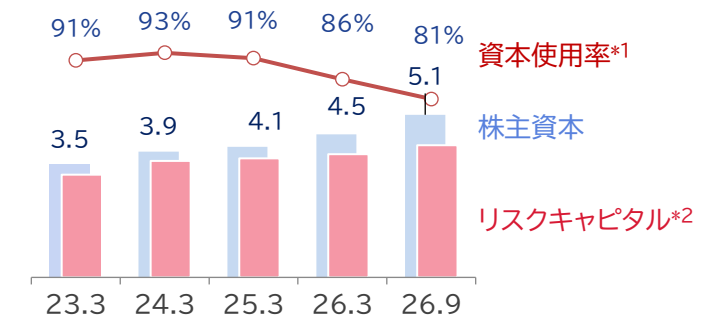
- 日本円：▲15～▲20億円
- 米ドル：+5～10億円
- ユーロ：▲10～▲15億円

為替

- 為替感応度：+10～15億円

株主資本・資本使用率

（兆円）



*1: 株主資本に占めるリスクキャピタル*2の割合。
*2: 26.3期Q3より計算モデルを更新、遡及修正は実施せず。

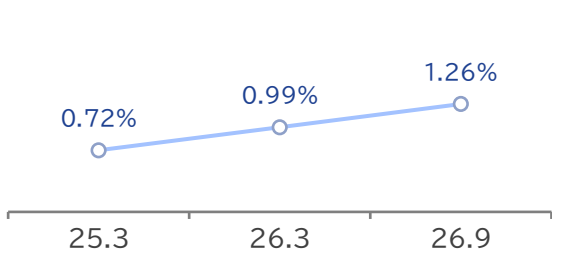
格付

	2026年9月末
S&P*	BBB+(安定的)
Moody's	A3(安定的)
Fitch	A-(安定的)
R&I	AA(安定的)
JCR	AA(安定的)

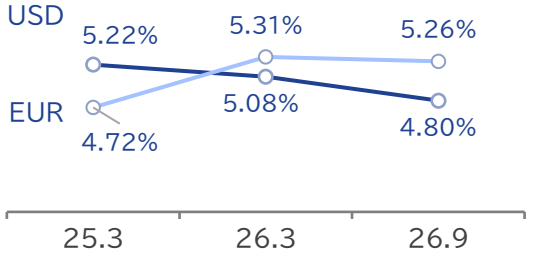
＊ RAC比率算出上、Avolonへの持分投資とオリックス生命の資本は、連結株主資本から控除されている。

調達コストの推移 （非継続事業を除いたうえで25.3期まで遡って適用済み）

円貨コスト



外貨コスト

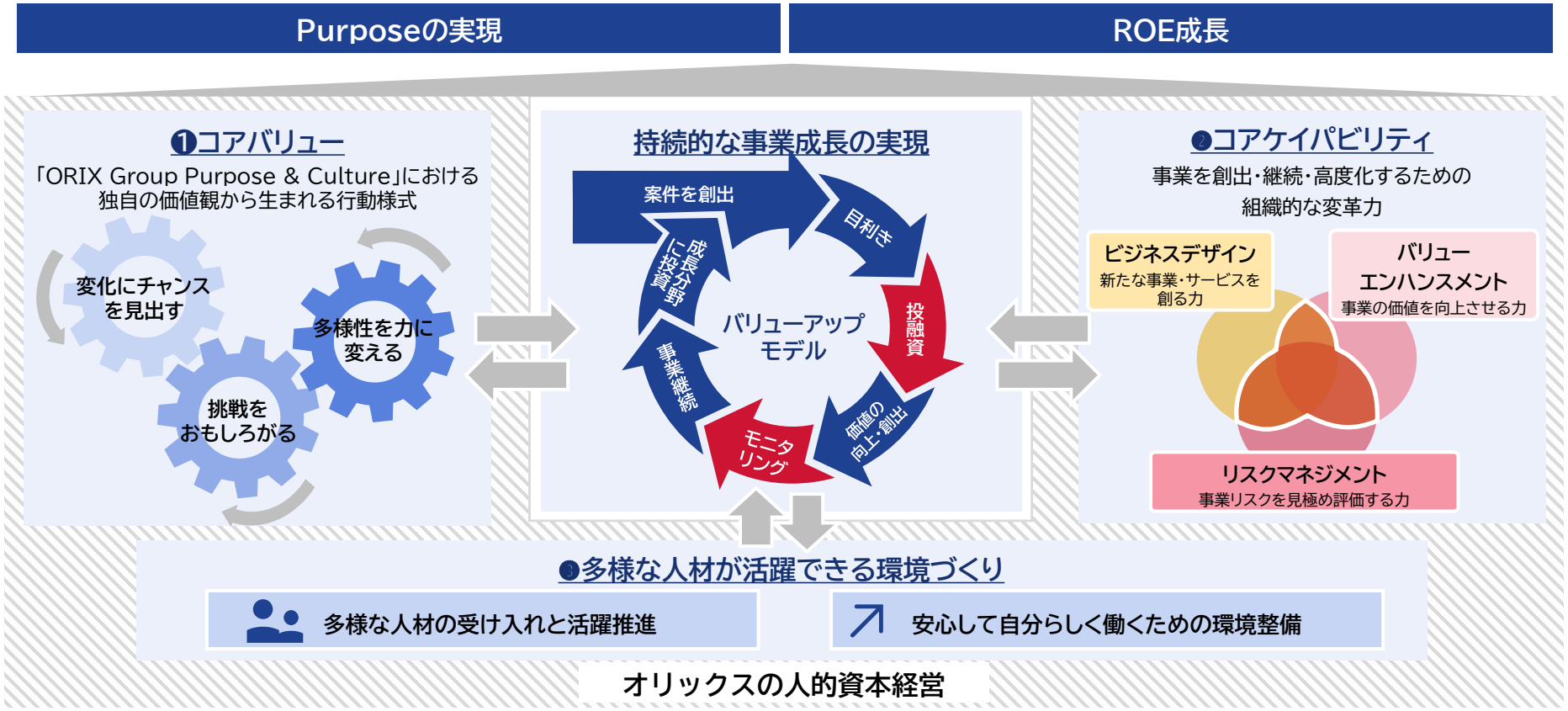


Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

人的資本と事業成長

- ✓ 競争力の源泉である人的資本の構成要素を、コアバリュー、コアケイパビリティ、人材活躍の場と定義
- ✓ これらを三位一体で強化することで、人的資本の価値最大化と事業の持続的成長が可能に

※ORIX Group Purpose & Cultureはこちら



Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

ESG

ESG評価機関による評価　（2026年9月28日時点）

ESG評価機関	評価
MSCI	**AA** 「総合金融業界201社のリーダー」
FTSE	**3.5** FTSE Blossom Index構成銘柄(継続)*1
Sustainalytics	**13.4** 「Diversified Financials業界665社中30位」
Dow Jones Best-in-Class Indices*2	**50** 業界平均スコア:29
CDP	**A-**

重要課題（2026年5月更新）

事業における重要課題	気候変動対応	脱炭素社会の実現に向けた機会を捉え、事業の進化につなげる。
	循環型経済	目利きと運営力を生かし、資産価値の最大化と循環を実現する。
	社会への活力	地域の事業基盤と人材力を活用し、人々の暮らしと経済活動に活力をもたらす。
	ビジネス・エコシステム	幅広いパートナーとの協業を通じて、新たな価値と解決策を創出する。
成長戦略を支える重要課題	人的資本経営	多様な人材が活躍できる環境を整え、イノベーションと競争力を高める。
	ガバナンス	取締役会の監督機能とコンプライアンス・情報セキュリティに関するリスク管理体制を強化する。

※ 統合報告書2026はこちら

*1 GPIFが採用する6つのESG指数(国内株式)の全ての構成銘柄に選定済。 *2 CSAスコア（旧Dow Jones Sustainability Indices（DJSI））

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

ORIX Investor Day 2026｜ロンドン(7月2日開催)

「ORIX Investor Day 2026」リンク

ダイジェスト動画はこちら













Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみに全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会(SEC)に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因(Risk Factors)」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

Copyright © ORIX Corporation All rights reserved.

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページを
ご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

- 投資家情報
  URL: https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/
- IR資料室
  URL: https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library

オリックス株式会社　IR部
TEL:03-3435-3121